

# 第12回国立公園満喫プロジェクト有識者会議

## 議事次第

日時：令和2年3月4日（水）

13：00～15：30

場所：環境省第1会議室

### 1. 開会

### 2. 議事

（1）国立公園満喫プロジェクトの実施について

（2）その他

### 3. 閉会

## 配付資料一覧

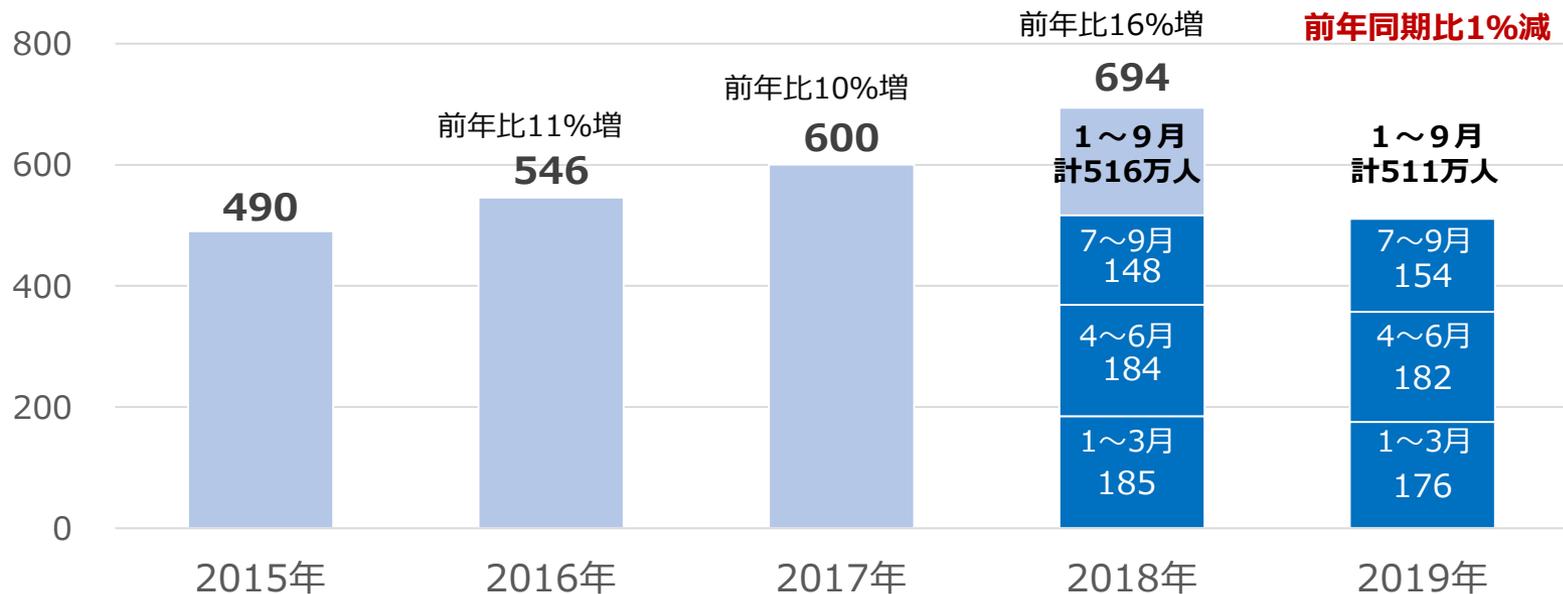
- 資料 1 国立公園訪日外国人利用者数（2019 年中間推計）
- 資料 2 質の指標に係る 2019 年度の調査結果（国立公園訪問者アンケート）について
- 資料 3 国立公園満喫プロジェクトの先行 8 公園の成果について
- 資料 4 国立公園満喫プロジェクトの取組成果と今後の予定
- 資料 5-1 国立公園満喫プロジェクト（2016～2020 年）の総括
- 資料 5-2 国立公園満喫プロジェクトの 2021 年以降の取組方針案（たたき台）
- 参考資料 1 国立公園満喫プロジェクト有識者現地視察箇所一覧
- 参考資料 2 新宿御苑における魅力向上の取組状況
- 参考資料 3 令和 2 年度国立公園満喫プロジェクト等推進事業
- 参考資料 4 令和 2 年度国際観光旅客税による事業概要
- 参考資料 5 国立公園満喫プロジェクトの 2021 年以降の取組の方向性検討について
- 参考資料 6 国立公園別訪日外国人利用者数推計値（2018 年）
- 参考資料 7 国立公園満喫プロジェクト有識者会議 委員名簿

- **2019年1～9月の国立公園の訪日外国人利用者数は511万人と推計。前年同時期と比較して5.3万人減（1.0%減）。**
  - 減少数が大きいのは、阿蘇くじゅう国立公園で、最大シェアで約7割\*を占める韓国客が減少し、前年同期比15.5万人（20.1%）減。次いで、支笏洞爺国立公園で、最大シェアで約3割\*占める台湾客が減少し、前年同期比8.9万人（10.9%）減。
  - 増加数が大きいのは、富士箱根伊豆国立公園で前年同期比12.0万人（5.4%）増。次いで、上信越高原国立公園で前年同期比2.9万人（11.3%）増。
- \* 2018年におけるシェア

### 【参考】

- 2019年1～9月の訪日外客数は2442万人（前年同期比4.0%増）
- ただし、国立公園の外国人利用者数の約2割\*を占める韓国は、全国でも13.4%減である中、国立公園では18.6%減となっており、観光需要の高い地方エリアへの影響が大きく生じた。特に、訪日旅行控えや航空路線の運休・減便等の影響が顕著となった8月以降を含む7～9月の減少が著しい。
- また、国立公園外国人利用者数で最大の中国について、1～3月には、全国で11.6%増にもかかわらず、国立公園利用者数は前年同期比5.4万人（9.9%）減となっている。

単位：万人



※四捨五入による端数処理により、合計値が一致しない場合がある。

# 国立公園別訪日外国人利用者数推計値 前年同期比 (1-9月)

資料1 (別紙)

期間途中推計により標準誤差率を考慮し、利用者数の多い10公園のみの標記

公園名	推計実利用者数(人) *1					
	2018年1-9月		2019年1-9月			
		標準 誤差率		標準 誤差率	前年比	
富士箱根伊豆	2,230,394	2.0%	2,350,583	1.9%	5.4%	
支笏洞爺	814,274	3.3%	725,680	3.5%	-10.9%	
阿蘇くじゅう	772,691	3.4%	617,298	3.8%	-20.1%	
瀬戸内海	491,388	4.3%	493,489	4.3%	0.4%	
上信越高原	260,571	6.0%	289,975	5.6%	11.3%	
中部山岳	294,127	5.6%	285,603	5.6%	-2.9%	
日光	198,276	6.9%	188,642	7.0%	-4.9%	
霧島錦江湾	103,275	9.5%	88,840	10.2%	-14.0%	
大雪山	40,389	15.3%	58,419	12.6%	44.6%	
伊勢志摩	38,891	15.6%	55,845	12.8%	43.6%	
合計	(各公園計)	5,598,609	1.1%	5,505,465	1.1%	-1.7%
	(実利用者数)	5,163,226	1.2%	5,109,838	1.2%	-1.0%

訪問率 *2	22.0%	20.9%	-4.9%
訪日外客数全体 *3	23,468,719	24,417,820	4.0%

[推計利用者数]

\*1 推計実利用者数：当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用しても1人と数える。また、合計（各公園計）は、1人の利用者が2つの公園を訪れると2人と数え、合計（実利用者数）は、1人の利用者が複数の公園を訪れても1人と数える。

\*2 訪問率：訪日外客数全体に占める国立公園を訪れた訪日外国人（合計（実利用者数））の割合

\*3 訪日外客数全体：出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

※本推計値は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の調査票情報を利用し、推計したもの。「訪日外国人消費動向調査」は、国籍・地域や出国港毎に回収目標数の抽出率が異なるため、母集団構成に合わせることを目的として国籍・地域別および出国港別ウェイトバック集計を行った（日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」ならびに法務省「出入国管理統計」の単純出国者数をウェイトとして使用）。



# 国立公園訪問者アンケート 2019年度調査の結果について

# 2019年度国立公園訪問者アンケート結果(概要)

- **外国人旅行者**の国立公園訪問の設定指標に関わる調査結果は以下の通り。  
なお、今年度調査の結果は、2019年12月途中回収分までの集計値のため、**暫定値であることに留意が必要**。
- **滞在全体の満足度**は、**“大変満足”の割合が46.7%**（昨年度48.5%）、**“大変満足～やや満足”の割合が96.5%**（昨年度96.4%）  
一方、“何とも言えない”“やや不満”、“不満”、“大変不満”を足した**不満寄りの割合は3.6%**（昨年度3.5%）となり、いずれも**ほぼ前年度並み**の結果となった。
- 国立公園内での**支出額は61,052円**（昨年度66,496円）となり、昨年度よりやや減少。費目別には、前年度と同じく“宿泊費（24,416円）”、“飲食費（12,519円）”、“買物費（9,765円）”の順に多い。特に**買物費が減少**（昨年度12,316円）。  
宿泊費はほぼ前年度並み（昨年度25,955円）。
- **宿泊日数は、国立公園内で1.3泊**（昨年度1.9泊）、**周辺地域を含めて3.3泊**（昨年度4.5泊）となり、一昨年度並みの水準となっている。
- 同一公園の来訪回数が**2回目以上のリピーターは14.0%**（昨年度15.9%）。日光国立公園と支笏洞爺国立公園はリピーター率が20%超え。

# 1. 調査概要

## 2. 指標に係る調査結果

2-1 満足度

2-2 支出額（国立公園内）

2-3 宿泊数（国立公園内、公園周辺含む）

2-4 リピーター率



# 1. 調査概要

## (2) 実施概要

### a) 実施手法

- **紙調査票方式**（現地留置き／調査員聴き取り）／**モバイル方式**（現地で観光客自身がスマホ等で回答）
- 各公園の状況に応じて、両方式を組み合わせて実施
- 言語は、日本語・英語・韓国語・中国語（繁体字・簡体字）に対応

### b) 実施時期（2019年度）

- 2019年 7月より順次実施

### c) アンケート回収数（～2019年12月回収分まで）

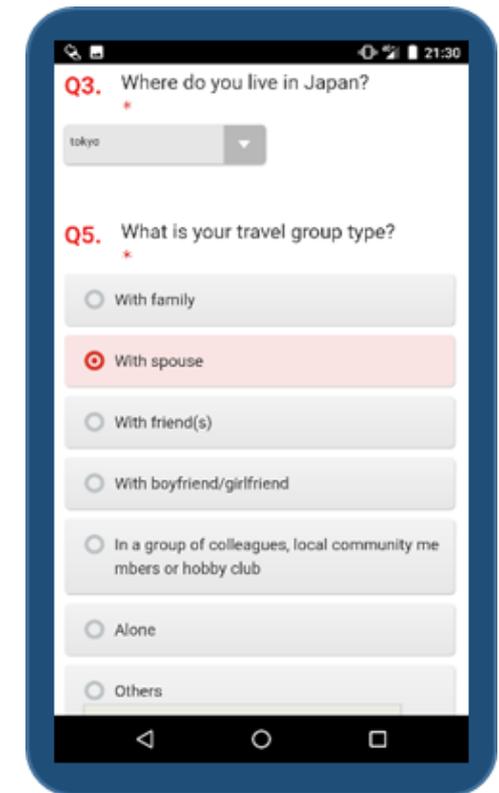
- 外国人 2,753票
  - 日本人 5,421票
- ※ 2020年2月回収分まで集計対象予定。そのため、年度末の業務完了時の報告において最終的に回収数及び集計値が変わる点に留意。  
※ 日本人/外国人は、日本語/外国語での回答を指す。

### d) 調査項目

- 公園訪問の内容
- 訪問に対する意識
- 回答者属性

### e) 昨年度からの変更内容

- 調査手法に変更はないが、これまでの回収実績に基づき、調査箇所の取捨選択を行った。



# 1. 調査概要

## (3) 調査票 (例：阿寒摩周国立公園のアンケート調査票)

### 阿寒摩周国立公園を訪れたあなたに 14 の質問

環境省では、日本の国立公園を世界の旅行者が訪れたいと感じる魅力的な旅行先にしていくために、全国 11 箇所の国立公園において、国立公園を訪れた方へ訪問内容や感想などを尋ねるアンケート調査を実施しています。恐れ入りますが、よりよい国立公園の実現に向けて、ご協力いただけますようお願い申し上げます。なお、回答にご協力いただいた方には、特製ポストカードをお配りいたしておりますので、回答後、施設スタッフにお声かけください。

#### 調査主体

環境省 国立公園課

#### 調査委託先

公益財団法人日本交通公社 国立公園来訪者アンケート係  
(mail : national\_park@jtb.or.jp / TEL : 03-5770-8444)

【全部で質問は 14 問 (5 分程度) です】

#### 回答にあたっての留意点

- アンケートは、阿寒摩周国立公園を訪問した 18 歳以上の方を対象としたアンケートです。
- 阿寒摩周国立公園のエリアは、下に示した地図上の着色した部分になります。回答の内容は、特別な記載がない場合には、阿寒摩周国立公園エリア内での出来事についてお答えください。
- なお、まだ旅行の途中に回答をいただく場合には、“今後の予定を含んだ”阿寒摩周国立公園での滞在全体のごことについてお答えください。



【調査員記入欄】 調査地点： 回収日：

#### ◎ 回答者ご本人について

- Q1. あなたの国籍 ( )  
 Q2. お住まいの都道府県 ( )  
 Q3. あなたの性別・年代 ( ) ( ) 歳代

#### ◎ 阿寒摩周国立公園への訪問内容について

- Q4. この地域が国立公園であることを知っていましたか？  
 (□知っていた □知らなかった)  
 Q5. 阿寒摩周国立公園へ来たのは今回が何回目ですか？  
 ( ) 回目  
 Q6. 今回訪れた (または訪れる予定) のスポットは？ (複数可)

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 阿寒湖畔エコミュージアムセンター | <input type="checkbox"/> 美幌峠展望台        |
| <input type="checkbox"/> 阿寒観光汽船           | <input type="checkbox"/> 川湯温泉          |
| <input type="checkbox"/> 阿寒湖アイヌコタン        | <input type="checkbox"/> 硫黄山           |
| <input type="checkbox"/> 阿寒湖温泉街           | <input type="checkbox"/> 摩周岳           |
| <input type="checkbox"/> 氷上フェスティバル会場      | <input type="checkbox"/> 藻琴山           |
| <input type="checkbox"/> 雄阿寒岳             | <input type="checkbox"/> 摩周第1展望台・第3展望台 |
| <input type="checkbox"/> 阿寒湖畔スキー場         | <input type="checkbox"/> 阿寒湖展望台        |
| <input type="checkbox"/> 雄阿寒岳             | <input type="checkbox"/> 屈斜路湖          |
| <input type="checkbox"/> 雄阿寒温泉            | <input type="checkbox"/> 砂湯            |
| <input type="checkbox"/> オンネトー            | <input type="checkbox"/> 和琴半島          |
| <input type="checkbox"/> 川湯エコミュージアムセンター   | <input type="checkbox"/> 神の子池          |
| <input type="checkbox"/> その他 ( )          |  |

#### Q7. 今回の訪問における宿泊先をお答えください。

エリア名	宿泊有無
阿寒湖周辺	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
オネトー・雄阿寒岳周辺	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
屈斜路湖周辺(仁伏砂 煮池の高、屈斜路コウキ)	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
川湯温泉	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
その他	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
公園内	
弟子屈市街	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
釧路市街	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
札幌市街	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
その他	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 泊
公園周辺	

#### Q8. 今回実施した (またはする予定の) 活動は？ (複数可)

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 自然や景勝地の訪問   | <input type="checkbox"/> 登山・トレッキング、ハイキング |
| <input type="checkbox"/> 現地グルメ・名物料理  | <input type="checkbox"/> スキー・スノーボード      |
| <input type="checkbox"/> まち並み散策・まち歩き | <input type="checkbox"/> フィッシング          |
| <input type="checkbox"/> 写真・写生       | <input type="checkbox"/> ガラケー・カメラ        |
| <input type="checkbox"/> 温泉          | <input type="checkbox"/> バードウォッチング       |
| <input type="checkbox"/> 歴史・文化巡り     | <input type="checkbox"/> キャンピング          |
| <input type="checkbox"/> 遊覧船         | <input type="checkbox"/> サイクリング          |
| <input type="checkbox"/> ドライブ・ツーリング  | <input type="checkbox"/> ショッピング・買い物      |
| <input type="checkbox"/> 祭り・イベント     | <input type="checkbox"/> その他 ( )         |

#### Q9. 今回の訪問のきっかけとなった情報源は？ (複数可)

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 以前訪問の自身の経験  | <input type="checkbox"/> 旅行会社パンフレット    |
| <input type="checkbox"/> 家族・友人の紹介・推奨 | <input type="checkbox"/> TV・映画での紹介     |
| <input type="checkbox"/> 個人ブログ・SNS   | <input type="checkbox"/> 旅行会社の紹介・推奨    |
| <input type="checkbox"/> 地域・施設の公式サイト | <input type="checkbox"/> 割引券や優待券       |
| <input type="checkbox"/> その他ウェブサイト   | <input type="checkbox"/> 自分の意志外(団体・仕事) |
| <input type="checkbox"/> 旅行雑誌・ガイドブック | <input type="checkbox"/> 理由はないが何となく    |
| <input type="checkbox"/> その他 ( )     |  |

#### Q10. 今回の訪問での支出額をお答えください。(数字記入)

公園内宿泊費 (一人当たり)	( ) 円
公園内飲食費 (一人当たり)	( ) 円
公園内交通費 (一人当たり)	( ) 円
自然体験・アクティビティ費 (一人当たり)	( ) 円
その他娯楽費 (一人当たり)	( ) 円
公園内買い物代 (一人当たり)	( ) 円
その他 (一人当たり)	( ) 円

#### ◎ 阿寒摩周国立公園を訪問した感想について

#### Q11. 今回の訪問における各項目の満足度をお答えください。 7:大変満足,6:満足,5:やや満足,4:普通,3:やや不満,2:不満,1:大変不満

項目	7-6-5-4-3-2-1 (いずれかに○)
滞在全体の満足度	+++++ or □該当無
自然景観	+++++ or □該当無
宿泊施設	+++++ or □該当無
宿泊施設以外の食事	+++++ or □該当無
お土産の内容	+++++ or □該当無
現地ツアー・プログラム	+++++ or □該当無
公園内移動・交通手段	+++++ or □該当無
デジタルツアーの情報提供 (阿寒湖畔エコミュージアムセンター、川湯エコミュージアムセンター)	+++++ or □該当無
交通案内板・標識整備	+++++ or □該当無
遊歩道・展望台整備	+++++ or □該当無

#### Q12. この地域への訪問を友人・知人に薦めたいですか？

- |                                 |                                  |                                 |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 必ず薦めたい | <input type="checkbox"/> 何とも言えない | <input type="checkbox"/> 絶対薦めない |
| <input type="checkbox"/> 薦めたい   | <input type="checkbox"/> あまり薦めない |                                 |
| <input type="checkbox"/> やや薦めたい | <input type="checkbox"/> 薦めない    |                                 |

#### Q13. 特に満足したことがあれば教えてください。(自由記述)

#### Q14. 不満または改善希望内容を教えてください。(自由記述)

# 1. 調査概要

## (4) 公園ごとのアンケート回収数

	阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園計	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園計
外国人	269	171	283	82	106	307	400	248	1,866	330	275	282	2,753
日本人 (参考)	434	263	351	346	216	305	353	1,840	4,108	326	399	588	5,421

※ 上記回収数は、2019年12月途中回収分までの合計。年度末の業務完了時の報告において最終的に数値が変わる点に留意。

※ 支笏洞爺、富士箱根伊豆、中部山岳における調査はそれぞれ支笏湖周辺、富士山周辺、公園南部に限定して実施。

※ 伊勢志摩、大山隠岐のサンプルは12月実施分の回収が遅れたため、年度末の最終報告時に反映する。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-1 満足度

#### (1) 「7. 大変満足」の割合

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園計	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園計
外国人	2019	49.8	52.2	43.6	51.5	27.5	44.6	29.1	59.9	44.8	43.3	52.3	60.2	46.7
	2018	53.8	47.8	47.6	60.8	40.9	40.1	32.9	51.9	47.0	43.1	54.8	59.8	48.5
	2017	35.5	41.7	53.0	44.7	24.6	31.8	23.3	50.2	38.1	-	-	-	-
(参考)日本人	2019	32.7	33.6	28.9	30.2	20.2	34.8	36.3	64.8	35.2	33.4	28.4	53.3	36.1
	2018	46.3	45.4	44.1	46.4	31.5	49.5	51.9	60.3	46.9	38.9	34.1	51.1	45.4
	2017	34.9	38.1	35.4	34.1	28.2	38.1	37.5	53.9	37.5	-	-	-	-

※2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-1 満足度

#### (2) 「7. 大変満足」～「5. やや満足」の割合

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園計	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園計
外国人	2019	97.1	97.5	96.2	100.0	94.2	97.2	94.5	96.0	96.6	97.3	95.4	96.2	96.5
	2018	98.3	99.5	96.7	97.7	96.7	94.9	95.2	95.1	96.7	97.5	91.4	97.4	96.4
	2017	96.7	98.1	96.4	92.6	91.5	95.5	97.3	96.9	95.6	-	-	-	-
(参考) 日本人	2019	90.3	87.4	90.5	87.2	86.0	90.4	94.3	96.4	90.3	87.0	86.2	93.4	89.9
	2018	91.8	93.0	95.7	93.7	92.7	92.7	95.5	95.9	93.9	91.4	84.7	94.4	92.9
	2017	87.3	94.9	94.6	93.4	97.6	91.3	89.6	94.8	92.9	-	-	-	-

※2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-1 満足度

#### (3) 「4. どちらでもない」～「1. 大変不満」の割合

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園計	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園計
外国人	2019	2.9	2.5	3.8	0.0	5.8	2.8	5.5	4.0	3.4	2.7	4.6	3.8	3.5
	2018	1.7	0.5	3.3	2.3	3.3	5.1	4.8	4.9	3.3	2.5	8.6	2.6	3.6
	2017	3.3	3.3	3.6	7.4	8.5	4.5	2.6	3.1	4.5	-	-	-	-
(参考) 日本人	2019	9.7	12.6	9.5	12.8	14.0	9.6	5.7	3.6	9.7	13.0	13.8	6.6	10.1
	2018	8.2	7.0	4.3	6.3	7.3	7.3	4.5	4.1	6.1	8.6	15.3	5.6	7.1
	2017	12.7	5.1	5.4	6.6	2.4	8.7	10.4	5.2	7.1	-	-	-	-

※ 2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-2 支出額

#### (1) 全体

単位：円

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
外国人	2019	72,242	68,559	33,227	64,777	85,503	57,179	107,517	37,098	65,763	60,369	32,572	52,534	61,052
	2018	75,411	62,147	31,388	68,478	61,663	66,376	118,756	34,686	64,863	76,744	67,765	68,038	66,496
	2017	93,449	61,373	43,901	52,028	69,236	91,659	77,235	49,028	67,239	-	-	-	-
(参考)日本人	2019	23,068	27,978	23,444	34,554	34,044	16,356	40,201	41,020	30,083	15,918	12,972	34,797	27,668
	2018	28,462	36,175	24,322	28,989	30,892	17,105	31,651	40,068	28,708	27,121	20,718	41,509	29,728
	2017	34,219	38,330	30,809	30,619	44,782	17,727	36,194	47,542	35,028	-	-	-	-

※ 2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-2 支出額

#### (2) 費目別 (外国人)

単位：円

	阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
全体	72,242	68,559	33,227	64,777	85,503	57,179	107,517	37,098	65,763	60,369	32,572	52,534	61,052
宿泊費	30,706	32,431	15,196	24,682	33,743	21,118	29,394	15,994	25,408	28,804	13,998	22,516	24,416
飲食費	13,195	13,172	6,082	18,745	20,193	14,425	22,067	6,091	14,246	11,357	4,146	8,237	12,519
交通費	5,298	7,001	3,291	6,709	8,502	3,750	7,938	4,381	5,859	4,852	2,755	8,838	5,756
活動費	3,462	679	976	2,917	1,353	1,859	2,490	4,055	2,224	2,961	666	1,915	2,121
娯楽費	2,948	527	1,781	2,593	3,952	1,845	2,298	1,648	2,199	1,667	932	1,762	1,996
買物費	12,041	7,026	4,785	8,669	15,413	7,764	26,766	3,707	10,771	7,697	6,030	7,522	9,765
その他	4,591	7,723	1,116	463	2,346	6,420	16,565	1,222	5,056	3,031	4,044	1,744	4,479

※ 2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-3 宿泊数

#### (1) 公園内

単位：泊

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
外国人	2019	1.8	1.2	1.7	1.4	0.8	0.3	1.1	2.5	1.3	1.2	1.2	1.4	1.3
	2018	1.6	2.1	2.4	1.7	2.0	1.5	1.7	3.0	2.0	1.6	1.9	1.6	1.9
	2017	1.8	1.3	1.2	1.3	0.8	0.5	1.1	1.8	1.2	-	-	-	-
日本人 (参考)	2019	1.3	1.1	1.4	1.2	0.7	0.4	1.0	2.0	1.1	1.0	1.0	1.4	1.1
	2018	1.2	1.7	1.5	1.1	1.5	1.1	1.0	2.3	1.4	1.3	0.6	1.8	1.4
	2017	1.6	1.1	1.1	0.7	0.7	0.3	0.6	1.9	1.0	-	-	-	-

※ 2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-3 宿泊数

#### (2) 公園周辺を含む

単位：泊

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
外国人	2019	4.0	2.4	3.5	2.1	3.3	2.9	3.5	6.4	3.5	3.7	1.7	2.9	3.3
	2018	4.2	3.8	3.4	3.5	5.2	4.0	4.4	7.8	4.5	4.9	4.7	3.5	4.5
	2017	5.4	3.7	1.5	1.8	4.4	2.4	3.1	5.6	3.5	-	-	-	-
日本人 (参考)	2019	2.2	1.7	1.5	1.3	1.6	1.6	2.2	3.3	1.9	2.0	1.4	1.7	1.9
	2018	2.8	2.6	1.7	1.5	3.1	2.7	2.4	4.2	2.6	3.3	1.4	2.3	2.6
	2017	2.5	2.0	1.3	0.8	2.1	1.0	1.2	3.5	1.8	-	-	-	-

※ 2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-3 リピーター率 2回目以上の来訪者

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	11公園平均
外国人	2019	15.2	17.3	23.8	13.6	7.4	8.4	11.3	15.3	14.0	24.3	18.1	15.8	14.0
	2018	14.8	15.6	17.8	14.6	9.4	12.3	8.3	15.3	13.5	11.9	40.4	14.7	15.9
	2017	5.1	32.8	20.0	19.8	13.2	17.9	8.4	11.9	16.1	-	-	-	-
(参考) 日本人	2019	58.6	57.0	83.7	57.3	46.4	56.0	41.8	53.2	56.8	65.8	77.5	72.0	57.7
	2018	58.6	66.1	83.2	55.9	48.3	68.6	45.7	52.3	59.8	65.0	91.4	67.8	63.9
	2017	79.4	80.4	85.8	68.8	59.8	79.7	67.0	50.7	71.4	-	-	-	-

※2019年は暫定値。

## 2. 指標に係る調査結果

### 2-5 満足／不満コメント（自由記述）

#### 【不満コメント・抜粋】

- **ウェブから宿泊予約**をするのが難しかった。【阿寒摩周／シンガポール／30代女性】
- 韓国内では**あまり知られていない**。より広報を行って素敵な自然を見に来たら良いと思う。【阿寒摩周／韓国／20代男性】
- 公共交通**バスの頻度**がより多いと良かった。【支笏洞爺／香港／50代女性】
- 寺社で1300円のチケットを買ったが、誰も**英語を話せず**何を言っているかが理解できなかった。【日光／タイ／60代男性】
- 食べ物の説明など**英語サイン**がより多いと良い。たまに英語で書いてるが、**文法が間違っている**ことがあった。【中部山岳／米国／20代男性】
- **ベジタリアン**向けの食べ物、可能であれば**ハラール食品**を用意してほしい。【中部山岳／マレーシア／50代女性】
- **ゴミ箱**がもっとあると良い。【中部山岳／中国／20代女性】
- **洋式トイレ**があると良い。【中部山岳／インドネシア／60代男性】
- 食事の**メニュー数**が少なかった。【大山隠岐／中国／50代女性】
- 全てのレストランが**満席**で夕食を取るためには待つ必要があった。【慶良間諸島／ロシア／30代男性】
- **地元産**の魚や野菜の料理がもっとあると良かった。食料品店で生鮮食品があるのは良かったが、種類が少なかった。【慶良間諸島／英国／20代男性】
- フェリーに乗っている間に流れていた国立公園のビデオはすべてルールに関するもので、**観光スポットや体験**に関する情報がなかった。【慶良間諸島／米国／30代男性】

#### 【満足コメント・抜粋】

- **自然が豊か**で、**景色が綺麗**だった。【阿寒摩周／台湾／50代男性】
- **展示方法**が面白かった。**展望台**が良かった。【阿寒摩周／中国／20代女性】
- スタッフの態度が良かった。**中国語と英語**の両方が話せるスタッフがいるのは素晴らしい。【十和田八幡平／シンガポール／30代女性】
- ビジターセンターの**スタッフが親切**でサービスが良かった。説明も分かりやすかった。【日光／台湾／40代男性】
- **英語の標識**が多くて良かった。【伊勢志摩／ノルウェー／30代男性】
- 登山と景色が良かった。【大山隠岐／中国／30代男性】
- 人々が礼儀正しく、**安全で清潔**だった。【阿蘇くじゅう／ドイツ／30代男性】
- ビジターセンターにある**展示物**が良かった。勉強になった。【霧島錦江湾／国籍不明／30代男性】
- 島が**静か**、海が綺麗。【慶良間諸島／ポルトガル／30代女性】
- 必要な**観光情報**がいつでも手に入れられて非常に役立った。【慶良間諸島／英国／20代男性】
- **温泉**に入りながら見える景色が綺麗だった、**食事**とサービスがよかった。【支笏洞爺／香港／30代女性】
- **飲料水の提供**。**休憩スペースの場所**は便利だった。**ヒューマニズム**。【富士箱根伊豆／香港／50代女性】
- **マイカー規制**がされているのが国立公園として素晴らしい。【中部山岳／シンガポール／30代男性】
- 山へ行くルートが綺麗だった。【中部山岳／米国／20代】



# 国立公園満喫プロジェクトの 先行 8 公園の成果について

# 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（１）

### アドベンチャートラベル（AT）の推進

- 体験・滞在型旅行であるATを北海道の新たなブランドとして定着させるため、**アドベンチャートラベラーを重要なターゲット**として位置づけた。
- 2016年以降のATWSに関係者が毎回参加し、積極的な誘致の展開により、**ATWS（Adventure Travel World Summit）の2021年北海道開催が内定**

#### ① AT関係者と地域とのネットワーク構築

- 「Adventure EDU」を釧路市で開催（2017年9月）
- AT関係者とのネットワーキングを図る「Adventure Connect」を札幌市で開催（2018年9月）
- AT関係者を招聘し、大型FAMツアー「Adventure Week」を開催（2019年2月）

#### ② ATWSの誘致活動

- 過去のATWS（2016～19年）に参加し、北海道の魅力をPR
- 道知事らを中心に、ATTA会長に対してATWS2021の誘致意向を伝達（2019年6月）



## これまでの成果例（２）

### 国立公園の新たな活用

- これまで**未活用だった国立公園の資源やエリア**について、自然環境の保全も踏まえた新たな活用を積極的に図り、民間等による取り組みを促進
- 阿寒湖畔ポッケ遊歩道を活用した夜のデジタルアートプログラムには、**延べ約3万4千人が参加**（2019年7月～11月）

#### ① 夜のデジタルアートプログラム

- 阿寒湖畔ポッケ遊歩道（特別地域内）を活用し、アイヌの物語から自然との共生の大切さを伝える、夜のデジタルアートプログラム「カムイルミナ」を開始



#### ② トレッキングツアー開始

- 2019年10月より、入山禁止となっていたアトサヌプリにおいて、ガイド付き限定のトレッキングツアーが開始
- エコツーリズム推進法を活用したルールを適用



# 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

これまでの成果例（3）

## 公共施設の開放等による民間投資の促進

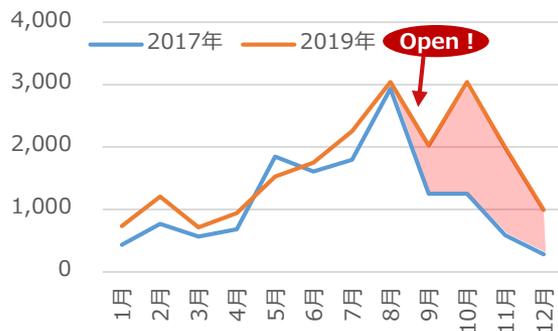
- 公共施設の開放や廃屋撤去等により、地域内外から地域の活性化につながる新たな民間投資を促進
- 川湯エコミュージアムセンター(EMC)で民間カフェが営業を開始し、**利用者数が顕著に増加(対2017年比240%)**
- 和琴野営場では民間事業者と連携してグランピングを試行し、**海外エージェントから次年度のツアー申し込みを獲得**

### ① VCへの民間カフェ導入

- 川湯EMCの2階に設置したカフェスペースで公募により選定した民間事業者が営業開始（2019年8月～）



川湯エコミュージアムセンター入館者数



### ② 廃屋撤去跡地の活用

- 川湯温泉街の廃屋撤去に着手し、地域の民間事業者等による跡地活用を検討中（2019年11月～）



撤去予定の廃屋

撤去工事の様子



※地域による活用イメージ

### ③ 公設野営場の民間活用

- 和琴野営場にて、民間事業者と連携し、閑散期有効活用策の検討としてグランピングを試行（2018～19年）



- 環境省、北海道、弟子屈町で連携協定を締結し、2020年度より弟子屈町内の公設野営場を民間事業者により一括運営



# 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト

## 2019年までの主な取組と成果

### ● 訪日外国人国立公園利用者数

2015年 6.3万人 (8.9%)	→	2016年 5.8万人 (10.2%)	→	2017年 5.7万人 (11.2%)	→	2018年 5.8万人 (12.7%)
--------------------------	---	---------------------------	---	---------------------------	---	---------------------------

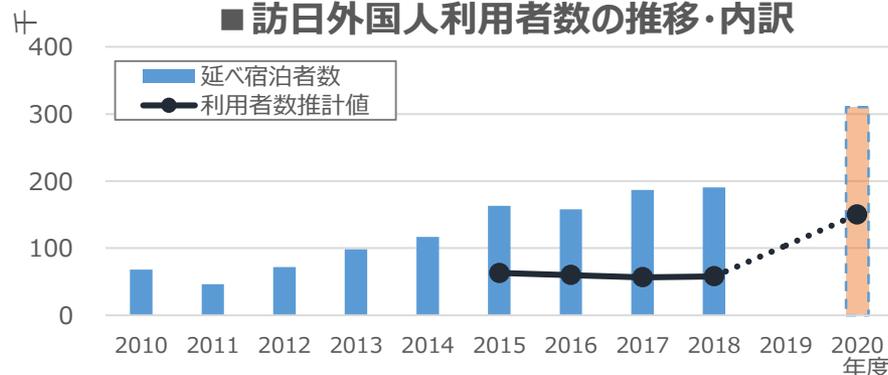
( ) は標準誤差

※目標値：阿寒摩周国立公園関係市町訪日外国人延べ宿泊者数：31 万人（2020年）

### 取組による成果・効果

- 道内一体となった取り組みで**アドベンチャートラベル**の推進を図り、**国際会議の誘致に成功**
- 公園内の**未利用資源・エリアの新たな活用**や**公共施設の民間開放**等に積極的に取り組んだ結果、VCへの民間カフェ導入、野営場の民営化をはじめとした**民間投資**が進んだ
- 取り組みの成果により、**訪日外国人宿泊者数**は年々**増加傾向**
- 特に「アジア」と比較して、「**欧米豪**」及び「**その他**」の**増加率が高い**点が特徴的

### ■ 訪日外国人利用者数の推移・内訳



	2015年度	2018年度	伸び率
アジア	152,846	168,781	110.4%
欧米豪	6,842	10,391	151.9%
その他	3,572	11,516	322.4%
計	163,260	190,688	116.8%

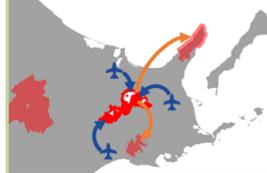
### 課題、強化が必要な取組

- ATWS2021の北海道開催を見据え、**アドベンチャートラベル**を主要なターゲットを定め、**消費額の向上**、**滞在日数の延長**等に繋がる取り組みを重点化
- SDGsの推進を踏まえ、アイヌ文化をはじめとした世界に誇る自然との共生の文化を発信する拠点として**持続可能な観光地**として**国立公園のブランド化**

### 強化する主な取組み

#### ひがし北海道におけるATの玄関口

知床、釧路湿原との連携等、ひがし北海道におけるATを満喫するための入口としての機能を強化



#### トレイルネットワークの形成

歩いて長期に滞在する旅行を推進するため、トレイルの整備など移動しながら楽しめるアクティビティの充実等を図る



#### 官民連携による新たな活用の促進

廃屋撤去、公共施設の開放等により**民間投資を促進**。また、**持続可能な仕組みを前提とした官民連携による新たな活用**を検討



#### 利用者目線での施設等の改善

多言語化、動線の明確化など、基本的な施設の**利用者目線での改善**に引き続き対応



# 十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（1）

## 十和田八甲田地域での冬季利用の促進

- 世界的に見ても降雪量が多く、良好なパウダースノーで知られる十和田八甲田地域。
- 冬季の楽しみを充実させ、年間を通じた持続可能な観光地の維持が図られた。
- 2017年12月から始めた新たな冬季観光コンテンツによって、十和田市内の冬季宿泊者数が増加。  
※2016年度44,529人泊、2017年度60,833人泊、2018年度67,774人泊

### 奥入瀬氷瀑ツアー（ネイチャーガイドツアー、ナイトツアー）

- 2017年度から開始した冬季観光コンテンツで、冬にしか見ることができない氷瀑などの自然景観をガイド解説付きで堪能できるツアー。
- 日中だけでなく氷瀑などの自然景観をライトで照らす「ナイトツアー」も実施。
- 2018年度からは、十和田湖畔で開催される十和田湖冬物語と連動したツアーも実施（冬物語会場→ナイトツアー→冬物語会場に戻って花火鑑賞ツアー）  
※2018年度1,114人、2019年度1,402人の参加者数  
※海外からの参加者割合が増加（2.1%が22%）



### 十和田湖温泉スキー場スノーアクティビティ

- 2017年12月に国立公園隣接のスキー場において、気軽に雪を楽しむスノーパークを新設。
- 2018年度はスノーイスカレーターを新設し、利用者の利便性向上を図った。  
※2018年の利用者数が増加



スノーイスカレーター



十和田湖温泉スキー場スノーパーク

# 十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（2）

## 八幡平地域での受入環境の強化

- 「桜と雪の回廊」「ドラゴンアイ」「古くからの湯治場が点在」する八幡平地域。
- 優れた自然や文化を体験できる魅力的なコンテンツの開発を進めることで、外国人の受入れ環境の強化につながった。
- 八幡平見返峠駐車場の利用台数が増加（11月上旬～4月中旬までは冬季閉鎖）。

※2016年24,870台、2017年25,025台、2018年32,944台、2019年37,421台

### ①八幡平アスピーテライン除雪見学会

- 例年11月上旬～4月中旬まで冬季閉鎖される八幡平アスピーテラインにおいて、2018年3月から除雪作業の一般公開が開始。
- 2019年からは見学会のほか、ガイド付き雪の回廊ウォーキングも開催。



### ②鏡沼のドラゴンアイ（自然現象）

- 例年5月下旬～6月上旬にかけて、雪が溶けると全体が巨大な竜の目のように見える自然現象。
- 2016年頃からSNSによって拡散、2019年に秋田県公式サイト「八幡平ドラゴンアイ発信局」が開設。
- 5月の駐車場利用台数が年々増加。

※2016年3,623台→2019年9,248台



# 十和田八幡平国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 2.1万人)  
 2015年 2016年 2017年 2018年  
 0.7万人 → 2.2万人 → 1.9万人 → 2.9万人  
 (26.7%) (16.6%) (19.5%) (17.9%)  
 ( ) は標準誤差

## 十和田湖畔での景観改善

- 13案件のうち、3案件について撤去に向けた訴訟提訴
- 上質化補助金を活用した民間施設の外観改善など



## 酸ヶ湯グランピング試行

- トレッキングアクティビティ×宿泊のセプトで試験的に実施。  
 ※2019/8/30～9/8、15000円/人  
 ※3棟で延べ22名の利用



## 利用施設の再整備

- 滞在空間上質化のための園地整備
- 満足度向上のための歩道整備

休屋園地



鳶沼歩道



鳶沼：紅葉時期



## 案内誘導の強化

- ビジターセンターにおけるQRコード
- 映像及び標識類の多言語化

## 二次交通の改善

- 2016年から十和田湖～八幡平間の「八郎太郎号」運行  
 ※2016年129人→2019年348人、  
 外国人が4人→36人に増加

## 取組による成果・効果

- 冬季利用の促進や外国人の受入環境の強化などによって、訪日外国人利用者数の目標値を達成。
- 二次交通の改善を目指した観光路線バスや新幹線駅から国立公園利用拠点までのシャトルバス利用者も順調に増加。

## 課題、強化が必要な取組

- 国立公園コンテンツを利用した北東北三県の広域周遊ルートの充実や外国人受入れ環境の強化を図りつつ、旅行消費額や満足度などの質の向上を図る。
- 主要交通拠点及び観光拠点において、国立公園の案内誘導の充実と多言語対応の促進を図る。

# 日光国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

● 訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 50万人)  
 2015年 2016年 2017年 2018年  
 19万人 → 24万人 → 27万人 → 30万人  
 (5.1%) (5.0%) (5.1%) (5.5%)  
 ( ) は標準誤差

## これまでの成果例 (1)

## 国際観光地 中禅寺湖エリアの復活

- 明治から昭和初期に外交官の別荘が数十軒建設され「夏の日光は外務省のロビーのようだった」と言われた中禅寺湖。
- イタリア／英国の大使館別荘記念公園のさらなる活用とともに、かつての歴史を堪能するための環境整備が進捗。

### ① 大使館別荘記念公園活用促進、船によるアクセス新設

- 大使館別荘記念公園において、コンサート等を実施。
- アメリカの水辺リゾートをモデル1947年に整備されたポートハウスにおいて、英国大使館関係者による貸切ディナーを実施。
- 駐車場から徒歩15分の大使館別荘記念公園に船でアクセスできるように東武興業が棧橋を新設(2019年)。施設利用者のうち1～2割が船を利用。



中禅寺湖半ポートハウス



大使館別荘記念公園前棧橋

### ③ 富裕者層向けコンテンツ開発

- 2020年5月のザ・リッツ・カールトン日光開業を見据え、ザ・リッツ・カールトンとともに大使館別荘の専有利用や富裕者向けアクティビティ開発が進行中(栃木県・環境省事業及び関東運輸局事業)。



ザ・リッツ・カールトン日光 パース



イタリア大使館別荘記念公園

### ④ レンタサイクルによる新規アクセス・体験の提供

- 栃木県・県立日光自然博物館が中禅寺湖畔でのレンタサイクルを開始(2017年)。年間約1,500台が利用。中禅寺湖遊覧船への自転車持ち込みについても検討中。



レンタサイクル

### ② 日光エリアの案内所連携強化

- 英語対応可能なJNTOカテゴリ2の観光案内所を中禅寺湖畔に新設(2018年)。年間8,500人程度の外国人が利用。



奥日光インフォメーションセンター

# 日光国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

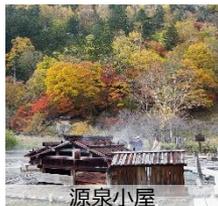
## これまでの成果例（2）

### 湯元温泉の「日光の奥座敷」としての上質化

日光地域の奥に位置する湯元温泉への誘客・滞在時間延長による日光地域全体の活性化を目指し、廃屋の撤去、資金・人材を融資する民間組織の巻き込みを実施し、地域との対話を開始。

#### ① 商業施設誘致と連携した再整備

- 環境省所管地である湯元温泉を**日帰温泉・商業施設誘致を含めた再整備**するべく、マスタープラン作成に向けた地域対話を実施中。



源泉小屋



温泉組合婦人部との意見交換

#### ② 引き算の景観改善

- 2018年に**ガソリンスタンドの廃屋を1棟撤去**。2020年に**土産物屋の廃屋を撤去予定**。撤去跡地は①の再整備で活用予定。



撤去前



撤去後

#### ③ 民間からの資金・人材投資の促進

- 地域経済活性化支援機構（REVIC）と地銀が組成する観光遺産産業化ファンドに**栃木銀行と足利銀行が出資を決定**（2019年）。日光地域を対象として資金とともに、**人的資源供与を通じて観光を通じた地域活性化**を予定。



## これまでの成果例（3）

### 公共施設の民間開放

飲食店に限られる国立公園の奥地にあるビジターセンターにおいて飲食できるスペースを提供することで、利用者満足度の向上や滞在時間の延長を実現。今後民間視点でキャンプ場を整備し、国立公園核心部への誘客を図る。

#### ① 那須平成の森でのカフェ出店

- 2017年に開始。2019年度は5～10月の開園日の6.5割程度の日数で出店し、**利用者の1.5割程度が利用**。
- 公園外のカフェ本店舗とお客の行き来も発生中。
- ガイドウォークと森の中でのカフェを組み合わせたプログラムも試行。



プログラムと合わせた森カフェ（2019年）

#### ② 那須野営場の運営者を交えた再整備

- 運営者・設計者・整備主体を同時に公募する方式で環境省のキャンプ場を再整備するための条件整理を実施。2020年度に公募予定。

#### ③ 湯元VCのくつろぎスペース整備と地元商店の試験出店

- 湯元ビジターセンターに整備したくつろぎスペースにおいて、地元麴屋による試験出店を実施。**来館者の1割程度が購入**。



くつろぎスペースでの麴屋出店の様子

# 日光国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（４）

## 「誰が来ても楽しめる国立公園」のためのガイド体制・案内機能強化

国立公園を「日本第一級の自然を誰でも体感できる場所」としてソフト面でブランディングしていくことを目指し、ガイドの質の向上と利用者の属性・滞在時間などに応じた案内機能強化を実施。

### ①ガイド登録制度の設立

- ▶ 日光国立公園で活動するガイドを個人単位で登録する制度を2019年度に設立。登録に必須の研修に130名超のガイドが参加。

### ②ガイド有志による奥日光ガイドの組織化

- ▶ ガイド限定エリアの開拓、ガイドの質の向上などを目的に、民間有志による奥日光のガイド組織が設立。

### ③ビジターセンターへのアクティビティ紹介デジタルサインージ新設

- ▶ ビジターセンター（日光湯元、那須高原）に90程度のアクティビティを紹介するデジタルサインージを設置。掲載記事の作成をきっかけとして、鉄道会社などを含めた関係機関でのPR写真素材の共有システムを構築予定。

### ④日光エリアの案内所における機能及び連携の強化

- ▶ **JR日光駅インフォメーションセンター**  
奥日光や那須など広範囲なエリアの情報発信を強化（2016年）
- ▶ **東武日光駅**  
英語対応可能な「日光コンシェルジュ」を配置（2017年）、祈祷室などムスリム対応整備を実施（2018年）
- ▶ **中禅寺湖畔**  
英語対応可能なJNTOカテゴリー2の観光案内所を新設（2018年）（再掲）

- ▶ 東武・JR日光駅、中禅寺湖、湯元などの案内所・ビジターセンタースタッフ間での情報交換会、コンシェルジュ研修を実施（2020年）。エリアとして一体的な案内ができることを目指す。
- ▶ ビジターセンター・案内所スタッフが地域のアクティビティを無料体験できる仕組みを構築予定。



日光ビジターセンターデジタルサインージトップページ

### 取組による成果・効果

- ▶ 2015年と比べ、2018年は利用者数が1.6倍、宿泊者数が1.27倍に（目標達成には伸び率増が必要）
- ▶ 民間含め、様々な取り組みが展開され、利用者増、連携強化、体制強化が実現

### 課題、強化が必要な取組

- ▶ 特に宿泊者数が伸び悩み、消費額が他の公園より低い  
→ 冬季コンテンツ、夜間と朝のコンテンツ、富裕者向けコンテンツ開発・磨き上げ  
→ 設立されたガイド組織を生かしたガイドの質の向上
- ▶ 万人に対応できる案内機能が実現できていない  
→ 案内機能のさらなる強化

# 伊勢志摩国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例 (1)

「横山天空カフェテラス」の整備を核とした横山集団施設地区の一体的な魅力向上  
 横山から望む英虞湾の優れた景観を最大限に活かした、魅力ある利用空間の整備を図り、その魅力を十分に満喫できる上質な時間を提供することで、付加価値の高い新たな魅力を創出

### 【クルーズ船乗客の誘致】



乗客のガイド

### 【園地内の他の展望台の再整備】



木もれ日テラス



そよ風テラス

### 【二次交通の改善】



志摩Maasの実証実験

### 【多言語化】



みはらし展望台  
Miharashi View Point  
標識の多言語化 (QRコード)

### 【横山天空カフェテラスの整備】 【民間のカフェの導入/地場産品を活用したメニューの提供】



利用者数が65%増加  
滞在時間が増加

### 【環境保全対策の推進】

プラスチック  
削減  
**RE100**

横山VC/カフェ

### 【情報提供の一元化】



デジタルサイネージ

### 【イベントの実施】



トワイライトカフェ (ジャズ演奏)



天空ヨガ

### 【英語ガイドの育成】



英語研修

# 伊勢志摩国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例 (2)

### クルーズ船の乗船客への観光案内

鳥羽港に寄港するクルーズ船の乗船客に対し  
伊勢志摩の魅力をPR  
(約1.2万人が降船し伊勢志摩を観光)

### クルーズ船の寄港実績 (2019年)

- ダイヤモンド・プリンセス(6回)
- EUROPA II(1回)

※飛鳥II、にっぽん丸などの日本船籍を除く

### 伊勢志摩の観光案内

- 臨時の観光案内所を随所に設置
- 通訳ボランティアを配置
- Wi-Fi環境の強化
- デジタルサイネージ及び多言語標識を設置

### 伊勢志摩の観光ガイド等

- 横山展望台への案内及び横山のネイチャーガイド
- 学生ボランティアによる市内の観光施設などへの誘導
- バスの臨時便の運行/フリータクシーの運行



乗船客への観光案内



真珠のアクセサリ作り(横山VC)

## これまでの成果例 (3)

### 諸課題に対応した取組の推進体制の確立

地域経済の好循環の拡大に向けた地域が一体となった持続的な取組の推進体制の確立

### 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会の設置

伊勢志摩国立公園及びその周辺地域において地域づくりなどの実現を目指してエコツーリズムの推進を図る

- 全体構想の策定に向けた検討
- 「インキュベーター事業」による高付加価値のツアー造成など

### 志摩Maas協議会の設置

近鉄や二次交通の乗車券類のほか、着地型旅行商品の「検索、予約、決済」などのシームレス化を図る

- Webを使った実証実験 (R1.10月~11月)
- アプリを使った実証実験 (R2.1月~3月)

### 鳥羽港クルーズ船誘致受入協議会の設置

鳥羽港に寄港するクルーズ船の乗船客を、伊勢志摩各地の観光地に誘客し、地域の消費拡大を図る

- 鳥羽港での観光案内
- ショートツアーの造成



志摩Maasの実証実験



## これまでの成果例 (4)

### 海女文化の継承と活用

3000年の歴史を有する海女文化の保存を図るとともにその魅力を世界に発信

### 海女文化のプロモーション

- ツーリズムEXPOジャパン、商談会などでPR
- パリで海女文化のトークショーを開催
- フランス・ドイツの公共放送「アルテ」が海女の番組「旅への招待」を収録し、EU各国に配信

### 海女文化の保存・継承

- 国の「重要無形民俗文化財」に指定(H29)
- 「日本遺産」(R1)、「日本農業遺産」(H29)に認定
- ユネスコ「無形文化遺産」の登録に向けた取組の推進
- 「全国海女サミット」の開催(毎年)
- 三重大学が「海女学講座」を開講(H31年度~)

### 海女体験

「海女小屋」の外国人利用者の増加  
(鳥羽市内の海女小屋の例)

- ・A社: 約2.4倍 (2015年と2018年の比較)
- ・B社: 約2.2倍 (2016年度と2018年度の比較)



海女小屋

# 伊勢志摩国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

● 訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 10万人)  
 2015年 2016年 2017年 2018年  
 3.3万人 → 6.1万人 → 7.6万人 → 4.9万人  
 (12.2%) (9.9%) (△9.7%) (13.9%)  
 ( ) は標準誤差

## 訪日外国人利用者の受入環境の改善

- 展望地の利用環境が改善
  - ・「横山天空カフェテラス」の整備を核とした地域の一体的な魅力向上
  - ・その他の展望地の利用環境が向上
- 多言語化が促進
  - ・標識類、パンフレット類、HP等の多言語化
- 交通アクセスが向上
  - ・志摩MaaSの実証実験によりアクセスが改善
  - ・バス路線の延伸
- ツアーコンテンツの質が向上
  - ・ファムトリップの実施により多言語対応が促進
- 情報提供の一元化が促進
  - ・横山VCにおけるツアーの予約システムの導入



## 効果的なプロモーションの推進

- 旅行博、商談会等において伊勢志摩の魅力をPR
- ファムトリップの実施により旅行業者に伊勢志摩の魅力をPR
- SNSに活用により伊勢志摩の魅力を発信
- クルーズ船の乗船客への観光案内
- フランスをターゲットとした海女文化のPR

## 持続可能な観光の推進

- 諸課題に対応した取組の推進体制の確立
- 太陽光発電施設の整備の適正化が促進
- 海女文化の継承と活用

## 取組による成果・効果

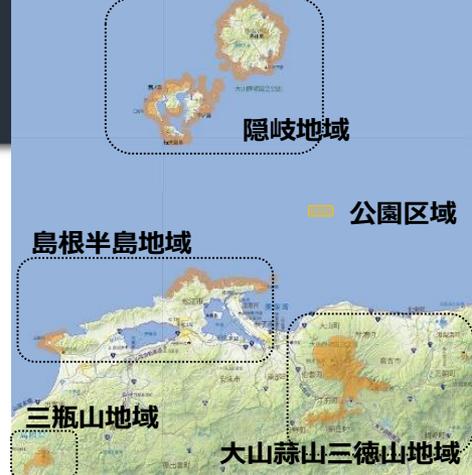
- ・ 横山集団施設地区における「横山天空カフェテラス」の整備により、供用開始日の前後1年間を比較した結果、同地区の利用者数が65%増加した(H29.8~H30.7とH30.8~H31.7の比較)。また、カフェの導入により、飲食を楽しみながらゆっくりと景観を楽しむ利用が生まれ、滞在時間が増加した。
- ・ また、外国人観光客の利用者数については、上段の統計では前年度大幅に減少しているが、宿泊者数(地方公共団体の統計)は、鳥羽市は約13%増、志摩市においても約3%増と、いずれも増加しており、これまでのプロモーションの成果がみられる。
- ・ その他、全体としては「国立公園訪問者アンケート」(環境省本省)の満足度の調査では、2018年の「大変満足」の割合は前年の44.7%から60.8%に向上し、また「やや満足」から「大変満足」と回答された割合は97.7%と高く、これまでの受入環境の整備の成果がみられる。

## 課題、強化が必要な取組

- ・ 「受入環境の改善」については、受入環境の基盤となる多言語化、交通アクセスの向上については引き続き取組を進めるとともに、情報提供の一元化については、ツアーの予約の一元化以外はまだ検討段階であり、実現に向けた取組の加速化が必要がある。
- ・ 「プロモーションの推進」については、引き続き従来の様々な手法を活用した幅広いプロモーションを継続していくと同時に、今後はターゲットを絞った効率的なプロモーションも強化していく必要がある。
- ・ 「持続可能な観光の推進」については、魅力資源の長期的な保存と活用を図るため、新たに整備された地域連携の枠組みを維持していくとともに、今後はより幅広い関係者と地域の魅力や価値観を共有し、地域全体で保全と活用の取組を推進していく必要がある。

# 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

- 大地の成り立ちを体感できる山・島・海の多彩な自然と、神話・信仰が息づく文化を楽しめる国立公園として、官民で連携して受入環境を充実化し、情報発信を促進。
- 大山隠岐国立公園の外国人利用者数は2015年から2018年で約1.4倍に。（独自調査に基づく推計）



## これまでの成果例（1）

## 大山地域での受入環境の充実化

### ①官民によるエントランス3施設のリニューアル

- 国の休憩施設、鳥取県の博物展示施設、民間施設（ツアーデスク、カフェ、ホテル）を改修、多言語化など機能強化。



大山ナショナルパークセンター（国）  
利用者約12万人／年



ツアーデスク（町）  
外国人利用者約1800人／年

### ②廃屋撤去による景観改善

- 廃屋を撤去しカフェや地域特産品の販売を行う商業施設を整備



### ③ I T 歩道整備

- 遊歩道を再整備し、対応する自然解説アプリ（日英中韓、野鳥・植物解説等）を開発。2019年は2,674人が遊歩道を利用。



### ④周遊型定額タクシーの運行

- 訪日客対象。5コースは大山地域の自然景勝地や寺社仏閣を巡る。車両には音声翻訳システムを掲載。



### ⑤保全と利用の充実化

- 大山頂上の避難小屋や木道を改修中。
- 山中のトイレ不足への対策として携帯トイレを試行的に運用。
- 受益者負担の仕組み（入山協力金等）の導入について検討中。
- 危急時対応が可能な公認の山岳ガイドを養成。



# 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（2）

### 多様かつ上質な体験の提供

#### ①ユニークなプログラムの開発

- 大山周辺地域において、オオサンショウウオ保全体験ツアーを造成・販売。料金の一部は保全活動に還元。2019年は外国人約30人が参加。



- 水陸両用機で島根半島東部の景観を上空から楽しむ「ジオフライト」を販売。2019年は264名が搭乗。



#### ②グランピングの販売

- 三瓶山地域において、自然、神楽を核とする歴史文化、地元の人との交流を楽しむアクティビティと組み合わせ、グランピングを販売。2019年は外国人42人が利用。



#### ③周遊モデルコースの設定

- メディア向けファムトリップ等での評価を踏まえて、新規コンテンツを組み込み1泊2日～5泊6日のモデルコースを設定し、プロモーションを実施。
- 神話・信仰と結びついた山から海に至るコース、世界ジオパークの隠岐諸島満喫コースなど多彩な内容を用意。

## これまでの成果例（3）

### 周遊促進

- 鳥取県全域と島根県東部の路線バスとローカル鉄道が2,500円で3日間乗り放題になる訪日外国人向け交通パスを試行的に販売開始。
- 島根半島西部地域では、超小型EV車を貸し出す実証事業を実施。2019年は204回の利用実績。



## これまでの成果例（4）

### 在住外国人のネットワークを活用した情報発信等

- 国立公園の国内外への魅力発信を目的に「大山隠岐国立公園国際パークサポーターズ」を組織。15か国30名が登録。
- 外国人モニターとしてコンテンツの磨き上げ等にも貢献。



# 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標：2015年の2.5倍)  
公園及び周辺地域の外国人宿泊者数を用いた独自調査による推計結果

2015年	2016年	2017年	2018年
10.7万人	→ 10.5万人	→ 12.6万人	→ 14.7万人

## これまでの成果例（5）

### 野営場のサービス向上

- ▶ アウトドア・アクティビティの拠点形成を目指し、民間のノウハウを活用しながら、大山地域の下山野営場の再整備を実施中。設計、施工から運営までを一体的に発注するDBO方式を採用。
- ▶ グランピングとサイクリングでの周遊を合わせたモデルプランを提示し、蒜山野営場への誘客を促進。



## これまでの成果例（6）

### ユニバーサルデザインの施設整備

- ▶ 環境省直轄で、国立公園の入口標識と多言語の解説看板をそれぞれ計8基設置。
- ▶ 隠岐地域において、車椅子用ができるように、ビューポイント2箇所 で園路を改修。



## 取組による成果・効果

**ハード：** 公共施設では、多言語化、ICT等を活用した内容の充実、トイレ洋式化、バリアフリー化を伴う形で整備・改修が進み、利便性が向上。 民間施設でも、廃屋や空き店舗等を撤去・改修し収益性のある施設への転換が図られた事例が複数あるなど、取組が進展。

**ソフト：** 官民連携の下で、①広報ツールや口コミ等による認知度向上のための情報発信、②体験型プログラム・ツアー商品の開発、③外国語対応が可能なガイドの養成、④商談会やOTA等を通じての旅行商品の販売促進、⑤交通パスや定額タクシー等のアクセス改善のための取組、⑥保全と利用の好循環の仕組みづくり等が進展。

→ 実感としても外国人観光客が増加し、地域住民の取組への関心も高まった。 地域間連携・官民連携が進行。

## 課題、強化が必要な取組

**課題：** 外国人満足度やリピーター率が8公園平均よりも低い。

**ハード：** 公共施設については、2020年度はVCや標識等の実施中の施設整備の完了に向けて注力が必要。 民間施設については、2021年以降も見据え、廃屋撤去等による景観改善やインバウンド機能向上等の取組を進めていく必要。

**ソフト：** SUPの下で実施してきたもののうち、特に①体験型プログラムや周辺地域と連携した周遊・滞在型のツアー商品の開発・磨き上げ、②ガイドの養成、③誘客のためのプロモーション、④二次交通の拡充については、2021年以降の展開も見据えながら、2020年度に一層取り組む必要。 寡雪時のプログラム開発、ツアー商品化等を支援するアドバイザーの現地派遣等の追加的なニーズへの対応や、大山隠岐国立公園ならではの独自色の打ち出しも要検討。

# 阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクト 主な成果

## これまでの成果例（1）

### 魅力的な草原景観の演出と利用による保全の強化

- ① 阿蘇パノラマラインが接続する草千里ヶ浜駐車場の利用者が、約10万人増加（H29：約33万人→H30：約43万人）
- ② 牧野組合の草原維持について、観光利用から支援する仕組みを創設（H31：参加者数300人、登録牧野ガイド数：47名）
- ③ 優れた眺望を確保するため、展望スポットにおいて通景伐採を実施（H28:1箇所、H29:2箇所、H30:4箇所、R1:2箇所）

#### ① 景観配慮型牧柵への改修

- H29～30、阿蘇カルデラ・草原を一望できる阿蘇パノラマライン道路沿いを景観配慮型安全柵に改修



草原景観を配慮した安全柵

#### ② 農閑期牧野（草原）の観光利用

- H31、農閑期の牧野（草原）において登録された限定ガイドによるバイク、トレッキング等のツアーが開始
- ガイド料の一部を草原維持費用に補填



農閑期の牧野をバイクで走行

#### ③ 展望スポットにおける通景伐採

- 展望スポットの優れた眺望の妨げとなっていた木を伐採



## これまでの成果例（2）

### 利用の開発・拡充

#### 阿蘇くじゅうの自然の魅力を感じ、今までにないアクティビティを開発、公園利用施設を新設

（阿蘇地域アクティビティ事業者数 H28：65事業者→H30：93事業者、H28以降新たに整備された利用施設数（計画含む）18施設）

#### アクティビティの開発

- 雄大な火山・草原を望み、不整地を踏圧が小さいバギーで疾走する新アクティビティが、誕生。利用者1,800人超



#### 阿蘇山火口広場の拡張

- 火山ガス規制の影響を回避し、より多くの利用を促すため、阿蘇火口見学広場の拡張を、景観配慮し最小限の規模で計画。R2年度に整備予定



火口見学広場の拡張計画図

#### 大草原の音楽舞台の整備

- 世界的に有名な和太鼓アーティスト「DRUM TAO」が管理運営に携わる舞台・休憩施設を既存事業地に整備。R2年度に完成予定



天空の音楽舞台（イメージ）

# 阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクト 主な成果

## これまでの成果例（3）

### 利用環境の改善・向上

- ①九州における訪日外国人レンタカー利用件数が、前年比35%増（H28：19,726件→H29：26,683件（35%増））
- ②多言語対応の取組が推進（訪日外国人対応のための研修の受講ガイド数（熊本県） H30：16名、R1：16名）
- ③公共の利用施設の改善（H28以降にインバウンド対策として改修等した公共の利用施設数（計画含む）100施設以上）

#### ①交通の利便性向上

- マップコード付きガイドマップの配布
- 九州地方整備局、NEXCO西日本との連携（道の駅ゆふいん国立公園ブース設置、高速道路乗り放題等）



九州高速道路の乗り放題パス

#### ②多言語対応の推進

- 観光庁事業ネイティブテキストの活用（VC展示、ガイドマニュアル）
- 英表記の登山マップ製作及びアプリによる普及
- 多言語対応ガイド育成



外国人へのガイド実習

#### ③利用施設のインバウンド対策

- サイクリング・マラソン等が安全かつ景観を堪能できるやまなみハイウェイの拡幅
- 南阿蘇VC等利用拠点のWiFi整備
- 民間の観光施設等を支援するくまもとフリーWiFi整備事業補助金の実施
- 大観峰等利用拠点のトイレ洋式化



やまなみハイウェイ拡幅（赤レーン）

## これまでの成果例（4）

### 熊本地震等からの創造的復興

熊本地震、阿蘇中岳大規模噴火による被災からの復旧・復興が推進（H28年以降に復旧した利用施設数 13施設）

#### 被災からの復旧

復旧した熊本と阿蘇を結ぶ長陽大橋



復旧した草千里展望台



- 利用拠点に繋がる道路、展望台・歩道等の利用施設が復旧、利用環境が回復

#### 被災を教訓に将来に繋ぐ取組



- 今後の噴火監視の一助となる火山カメラ設置
- 防災教育に活用できる阿蘇山上ビジターセンターの整備



- 被災のすさまじさを後世に伝える東海大学震災遺構施設の整備

➢ R2年にはJR豊肥線、国道57号線が開通予定

# 阿蘇くじゅう国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 140万人)  
 2015年 2016年 2017年 2018年  
 68万人 → 68万人 → 93万人 → 103万人  
 (2.7%) (2.9%) (2.7%) (3.0%)  
 ( )は標準誤差

## ①阿蘇くじゅう国立公園をデスティネーションとするプロモーション

➤九州の外国人入国者数が、140万人増加  
 (H28:372万人→H29:494万人→H30:512万人)

### 阿蘇くじゅう旅番組の海外放送

- 大分地元メディアと連携し、ラグビーWC前に誘客を狙った阿蘇くじゅう旅番組を豪・NZで放送



海外放送した番組 (イメージ)

### 香港プロモーション

- アジアマーケットの安定的な確保を狙って、ハブ都市の香港で海外旅行業者を招聘したプロモーションイベントを展開



香港プロモーションの様子

### SNS等を活用した海外広報

欧米向け広報戦略動画



- 阿蘇くじゅうアクティビティ等をストーリーで紹介する広報動画を製作。JNTOのHP掲載、配信
- 欧米豪に向けFacebook, Instagram, YouTubeに広告配信 (視聴回数約56万回)

## 取組による成果・効果

- 訪日外国人利用者数の増加 (H27:68万人→H30:103万人)
- H30の外国人延べ宿泊客数の都道府県順位が高位に  
 (延べ宿泊客数:熊本県23位、大分県25位に対し、外国人延べ宿泊客数:熊本県17位、大分県14位)
- 関係者や関係機関との連携がとれ、一体的な取組体制を構築

## 課題、強化が必要な取組

- 訪日外国人数の国別偏りの解消:韓国等東アジア市場が80%超を占め、同市場の社会情勢が大きく影響  
 →欧米豪は継続しつつ、インドネシア等他のアジア市場へのプロモーションを強化
- オーバーユース対策:交通網の回復に伴い訪問者の大幅に増加見込。交通渋滞等の利用過多が懸念  
 →ライド&パークの推進、公共交通機関の充実

## ②キャッシュレス化の推進

➤阿蘇地域アクティビティ事業者  
 キャッシュレス率の上昇  
 (H28:1%→H30:23%)

- 地元銀行と連携し、クレジットカード普及を推進
- 阿蘇観光連盟により観光、旅館、飲食事業者向けにカード決済の講習会を開催



## ③民間・関係機関等との連携

- 九州で事業展開しているオフィシャルパートナー、現地観光業の連絡会議を開催
- 九州地方整備局等との連携協定の締結
- 国立公園の地域資源を活用した経済活性化を図る協定を地元4銀行と締結

九州OP連絡会議



# 霧島錦江湾国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（1）

## 佐多・指宿地域の活性化・周遊

### ● 佐多岬の利用者数が約3倍（※1）、雄川の滝は約4倍（※2）に

※1：2016年 4.2万人⇒2019年 11.8万人 ※2：2016年 月平均25百人⇒2019年 月平均100百人

- 自然景観そのものを中心に、一体的な利用環境を造成
- 条件不利地・地方への誘導、周遊ルート確立（母都市である指宿側との連携）

### ① 雄川の滝の整備

- 鹿児島県・南大隅町が雄川の滝展望デッキ・遊歩道・駐車場・トイレを整備
- 歩道入り口に地元産果物を使ったカフェ・売店を整備
- 2018年8月、国立公園に編入
- 近隣の空中テント泊利用者向けに清流を眺めながらの朝食提供



### ③ アクセス改善

- 南大隅町が指宿港からの高速船と連携した佐多岬・雄川の滝等を巡る周遊バス（ガイド同乗）を2018年から運行開始。H30年度利用者数約1,400人
- 2019年度以降、地元バス会社が民営
- 指宿で宿泊し佐多地区を巡る旅行形態を新設

### ② 佐多岬の整備

- 環境省・鹿児島県・南大隅町が連携して、展望台・公園エントランスなどを一体的に整備
- 展望ポイントでの通景伐採を徹底
- 多言語解説の整備、WI-FI設置
- 2019年3月、佐多岬グランドオープン
- 展望台までの歩道のユニバーサルデザインに配慮し、介助者付き車椅子が通行可能。電動アシスト付き車椅子の貸出実績100人超。



# 霧島錦江湾国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（２）

## 霧島地域の魅力向上と二次交通改善

- 霧島の自然を活かした新たなコンテンツ・景観を提供し、新たなバスが運行
- 取組前にはなかったロングトレイル、SUP等の新たなコンテンツを検討・整備し、新たな魅力を構築
- 新たな展望台の整備、通景伐採により、霧島の新たな景観、より美しい景観を提供
- 取組前からの課題だった二次交通改善に向けて、2つの観光バスが実証運行

### ① 展望の整備

- 2つの火口湖を一望できる二湖パノラマ展望台にウッドデッキと四阿を再整備
- 加久藤カルデラを一望できる白鳥展望台を新たに整備
- ノカイドウ等が展望できるえびの高原つつじヶ丘の園路整備
- えびの高原、白鳥温泉上の県道脇、御池における通景伐採

白鳥展望台



二湖パノラマ展望台



### ② コンテンツの造成

- 地元観光団体が霧島連山を欧米からニーズの高いロングトレイル5日間のコース案を策定
- 複数の火山湖を活かし、新たに湖面を楽しめるSUP等の体験メニューを導入
- 霧島神宮参拝や高千穂峰登山道における多言語音声ガイド導入
- グランピングの試行的実施

SUP  
@白紫池



ロングトレイル  
コース案



### ③ 二次交通改善

- 霧島市による主要観光地を巡る周遊する観光バスが運行開始
- 国土交通省事業を活用し、鹿児島空港～えびの間で観光コンテンツと組み合わせた実証バスを運行したことで、二次交通改善に向けた課題と対策を把握

実証バス



実証バス  
ルート



# 霧島錦江湾国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

●訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 20万人)  
 2015年 2016年 2017年 2018年  
 7.1万人 → 7.9万人 → 12.9万人 → 14.2万人  
 (8.3%) (8.7%) (7.4%) (8.1%)  
 ( )は標準誤差

## ①体験メニューの充実

- ファムトリップによるインバウンド向けの魅力・課題の抽出と民間事業者ワーキング会議による利用と保全の好循環を図る滞在型プログラムを造成  
 (例) シカの夜間調査ツアー、クロツラヘラサギの調査ツアー
- 池田湖、重富海岸等でのSUP導入など、火口湖・海のアクティビティを開発・充実
- 自然をさらに深く体験できるように、ガイド人材・団体等の養成・充実



## ②利用環境改善

- 重富なぎさミュージアム、鰻池周辺の駐車場整備により大型バスが立ち寄り可能に
- えびの高原キャンプ場ケビン等の改修により利用率向上
- 各利用拠点でWi-Fi設置し、より情報にアクセスしやすく
- 各利用拠点、各コンテンツの場所において看板・パンフレット等多言語化
- 大浪池の多言語解説や噴石からの一時避難等の機能を備えた休憩所を整備中

## ③展望の改善

- 開聞岳登山道の乱立看板を統一し、景観改善

## ④プロモーション

- 国立公園フォトコンテスト・インスタミート等の開催



- 九州地区ビジネスマッチング情報交換会に参加
- 国立公園管理事務所の設置・所長就任によるメディア露出

## 取組による成果・効果

- 条件不利地である佐多岬、雄川の滝等の利用環境を整備することで、利用者が3～4倍に増加。
- 鹿児島市街地からアクセスしやすい桜島のフェリーターミナルに近い桜島ビジターセンターにおいて、外国人利用者数が約1.6倍に増加。(2016年：約30千人⇒2019年約49千人)
- 利用環境の改善、新たなコンテンツの造成、多言語化などにより、公園全体で利用者数が2倍に増加し、満足度も増加。

## 課題、強化が必要な取組

- 火山活動の影響による主要道路閉鎖もあり、霧島地域の二次交通改善が途上。
- また霧島地域のグランピングなど、新たなコンテンツの一部は商品化の途上。
- そのため二次交通の改善とコンテンツ造成等による魅力向上の双方が好循環がはかれるよう、強化が必要。

# 慶良間諸島国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（1）

## リゾートのための受入環境の充実・強化

- 「さんごゆんたく館」の整備により、国内外からの幅広い利用者に公園情報の案内、サンゴ礁保全の普及啓発が可能に
- 新たにリゾート空間として整備した「ニシバマテラス」により、快適なビーチの滞在利用が可能に
- 利用拠点施設やビューポイントにおける多言語対応の充実、外国人スタッフ等の配置により、受け入れ体制を強化

### ①「さんごゆんたく館」における公園サービスの提供

- 来訪者への公園情報の提供、サンゴ礁保全の普及啓発、地域との交流を担う拠点施設として、トータルな公園サービスの提供が可能に。
- 慶良間の美しさを紹介する映像ソフトが外国人利用者から高評価。
- 2019年の来館者は、主なターゲットとする欧米系利用者で1,340人（日本人9,153人、アジア系672人）。



さんごゆんたく館



館内の様子

### ②「ニシバマテラス」におけるリゾート空間の確保

- ビーチ利用、休憩、展望等のそれぞれの利用形態に応じた受入環境が整うことで、ビューポイントとしての魅力が高まり、リゾート利用が可能に。
- SNS上で多くの利用者がビーチ利用の魅力に関する情報を発信。



2階のテラス席



ニシバマテラス

### ③きめ細かな情報サービス・プログラムの提供

- さんごゆんたく館等の利用拠点施設において、多言語解説を充実させ、National Park Wi-Fiを導入。公園情報を得やすい環境づくりを進めた。
- 各港の観光案内所等で、外国人スタッフやデジタルサイネージによる多言語対応を実施。
- 冬季プログラムの強化やガイドの育成に向け、モニターツアーや勉強会の実施、アクティビティ事業者の活動実態を把握。



座間味港観光案内所

デジタルサイネージ（泊港）

# 慶良間諸島国立公園満喫プロジェクト 主な成果例

## これまでの成果例（2）

## 環境協力税の新たな導入及びサンゴ礁保全のための地域活動の推進

- 座間味村において2018年度に導入（渡嘉敷村は2011年度に導入済み）した環境協力税を活用し、ビーチ等における環境美化を促進
- 移動中の船舶内において、サンゴ礁の保全ルールを周知する映像ソフトの放映し、普及啓発を強化
- さんごゆんたく館において、子ども向け・一般向けの普及啓発イベントを積極的に実施

### ①環境協力税を活用した環境保全活動の促進

- 環境協力税（2018年度税込：渡嘉敷村約1,300万円、座間味村約1,000万円）の導入・活用により、漂着ゴミの処理等の環境美化・環境保全活動がより安定的に進められるようになった。



ビーチクリーン活動



アオウミガメ

### ②サンゴ礁の保全ルールの設定・普及啓発の推進

- 各島のビーチにおいて、サンゴ礁保全のための遊泳区域や自主ルールの新たな設定が進められた。
- 移動中の船舶内でサンゴ礁保全を多言語で周知する映像を放映し普及啓発を強化した。
- 多言語解説等整備事業により、サンゴ礁の保全ルールに関する解説文を作成し、普及啓発を促進した。



船内映像



保全ルールの多言語周知

### ③さんごゆんたく館における自然学習の実施

- さんごゆんたく館が開館したことにより、サンゴ礁保全の普及啓発につながる自然学習や各種交流イベント等を積極的に実施できるようになった。



サンゴ学習



国際サンゴ礁年イベント

# 慶良間諸島国立公園満喫プロジェクト 2019年までの主な取組と成果

● 訪日外国人国立公園利用者数(2020年目標 3.8万人)  
【冬季の入域者数(11～3月)(2020年目標 6.7万人)】

2016年	2017年	2018年
4.1万人 【4.6万人】	→ 4.3万人 【4.6万人】	→ 3.5万人 【4.5万人】

## ① 国立公園の基盤施設の民間活用による管理運営体制づくり

- 2020年度に整備予定の座間味ビジターセンター（仮称）において、民間を活用したカフェ等の収益事業を基にした管理運営体制の構築に向けて、施設設計及び地元調整を進めた。

ビジターセンターの整備イメージ



## ② ビューポイント等における多言語サイン等の再整備

- 各島のビューポイント等において、多言語による案内、解説、誘導サインの整備を行い、併せてトイレの洋式化を進め、来訪者の満足度向上を図った。

多言語サインの再整備



## ③ 電子決済システムの導入

- 座間味村の各事業者施設においてカード決済サービスが導入されたことで、来訪者の利便性向上が図られた。
- 渡嘉敷村の乗船券売り場において、乗船券のインターネット予約、カード決済が可能となり、来訪者の利便性向上が図られた。

カード決済システムの導入



## 取組による成果・効果

- ・ 快適なリゾート空間の確保に向け基盤整備を行った「さんごゆんたく館」や「ニシバマテラス」等におけるサービス提供、案内サイン等の多言語対応を通じて、魅力ある地域資源の活用と自然環境の保全を両立させる「良質な旅」の実現が図られてきている。
- ・ 本公園の本質的な価値であるサンゴ礁を中心とした「ケラマブルーの世界」を守るため、「環境協力税」の導入をはじめとした様々な取組が各主体により行われ、地域と来訪者が協力し守る地域づくりが進められてきている。「リゾートの実現」と「サンゴ礁の保全」の両立を支える基盤施設として整備を進めている座間味島のビジターセンターにおいて、民間活用によるカフェ・物販事業の収益を活用した管理運営の仕組みづくりを進めている。

## 課題、強化が必要な取組

- ・ リゾートのための利用者のニーズに応じたきめ細かな公園サービス（情報提供、コンテンツ、普及啓発等）の提供。
- ・ サンゴ礁の保全・活用に対するより一層の普及啓発、来訪者の理解や共感を元とした地域全体で守る仕組みづくり。
- ・ 多言語対応媒体の一層の充実化とともに、陸域を活用した体験メニューの磨き上げと浸透化、プロモーション強化。
- ・ 宿泊施設、アクティビティ等のウェブ予約システムの対応強化、最新かつ正確なオンライン情報の確保。
- ・ 座間味ビジターセンター（仮称）における民間活用による収益事業を核とした管理運営体制の構築。



# 国立公園満喫プロジェクトの 取組成果と今後の予定

# 1. 受入環境の整備 ① 基盤整備

## 施策の取組と成果

- 利用拠点の再整備により、景観の改善等が進み、ビューポイントを中心に**国立公園の上質化が進んだ**。
  - トイレの洋式化、案内標識等の多言語化、ビジターセンターへのWi-Fiの整備等が進み、**利用環境が向上**。
  - 休憩施設等へのカフェ設置やキャンプ場への民間導入、民間事業と協調した施設整備(阿蘇山上VC)が進み、**サービスの質的向上が図られた**。
  - 登山道や遊歩道の改修、展望台や駐車場の再整備等が進み、**利用施設の全体的な底上げが図られた**。
- (進捗率：利用拠点リニューアル 79%、多言語化(ライティング) 83%、ビジターセンターへのWi-Fi整備95%) (全34公園直轄施設)



【多言語化の推進】



2次元コードを活用した多言語化

直轄及び自治体施設の案内解説板やビジター展示等の多言語化を推進。2次元コードを活用したアプリにより、英・中等複数言語に対応。



【阿蘇くじゅう】



阿蘇火山博物館(民間施設)内に**阿蘇山上ビジターセンターを整備(H31.3)**。博物館内には民間カフェも併設され、2月には来場者数が**38万人を突破**。

## その他の取組

- 直轄及び自治体のビジターセンターにおいて、解説を分かりやすく伝えるため**展示のデジタル化を実施**。また、**WEBサイト、パンフレット等**についても、外国人目線で分かりやすい内容で**多言語化を推進**。
- 日光湯元ビジターセンターを改修**。休憩スペースの改善に加え、テラスデッキを新設し、「くつろぎスペース」を整備。飲み物の販売も開始し、景色を眺めながらゆったり休憩できる空間を創出。
- これまでに、8公園でビジターセンターの改修8カ所、新築2カ所、展望地整備3カ所、トイレの洋式化14カ所を実施。

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
多言語化(ライティング) (直轄施設における対応施設数)	1箇所 (2017年)	6箇所 (2018年)	33箇所 (2019年)	40施設 (2020年)
利用拠点のリニューアル (直轄事業で再整備を実施している集団施設地区数)	52地区・ 24公園 (2017年)	54地区・ 24公園 (2018年)	63地区・ 26公園 (2019年)	80地区・ 27公園 (2020年)
ユニバーサルデザイン (直轄ビジターセンター(69棟)の施設対応率)	79% (2017年)	80% (2018年)	81% (2019年 60/74カ所)	約90% (2020年)
長寿命化対策(長寿命化計画策定)	0公園 (2017年)	6公園 (2018年)	14公園 (2019年)	全公園 (2020年)

## 2020年度の取組予定

- 観光庁多言語解説整備支援事業と連携しつつ、全34公園を対象に、自治体の等施設も含めてICT等先進的技術を活用した魅力的な多言語解説整備をさらに促進。
- 駅・空港等でデジタルサイン等最新のデジタル技術を活用した**展示施設の導入**やコンテンツによる情報発信を進め、国立公園の自然などをより分かりやすく伝える整備を進める。

# 先行 8 公園における直轄施設整備事例①

## 阿寒摩周国立公園

博物展示施設内にくつろげるカフェスペースを整備（川湯）



before



after

標識デザインの統一、4カ国語に対応した解説板整備（阿寒湖畔）



老朽化木道の再整備（阿寒湖畔）



before



after

## 阿蘇くじゅう国立公園

芝生広場再整備、電柱移設による景観改善（長者原）



before



after

デッキ整備、修景伐採によるくつろぎ空間創出（南阿蘇）



before



after

## 日光国立公園

キャンプ場の民間導入（那須高原・予定）



before



after

# 先行 8 公園における直轄施設整備事例②

## 伊勢志摩国立公園



展望地の休憩所への民間カフェの導入（横山）

## 十和田八幡平国立公園



利用拠点広場の再整備による上質化（十和田湖）

## 大山隠岐国立公園



ビーコンと連携

木道上の解説板にビーコンを設置し、アプリで多言語表示（大山寺）



バリアフリー園路整備（隠岐西ノ島）

国立公園フォントを活用した記名標識（三瓶山）



before



after

## 霧島錦江湾国立公園



展望台・休憩所（佐多岬）



## 慶良間諸島国立公園



上質な休憩施設（北浜）

情報発信拠点（阿嘉）



# 1. 受入環境の整備 ②コンテンツの磨き上げ・受入体制強化

## 施策の取組と成果

- 自然や暮らし、文化を生かした質の高い体験の提供や、**滞在を延ばし消費単価や満足度向上**につながるよう、**国立公園ならではのコンテンツ**を充実。
- ファムトリップ等によりコンテンツを磨き上げ、**17公園のコンテンツ集2019**を作成（2018は8公園）。
- コンテンツ集を活用したプロモーション、国内外のOTA（オンライン・トラベル・エージェント）の掲載支援、ビジターセンターに予約機能を備えた**デジタルサイネージを設置**。野生動物を観察するツアー造成支援を開始。

### 【慶良間諸島】



国立公園コンテンツ集について、先行8公園を含む**17公園のコンテンツに拡充**。計185コンテンツ、44コースを掲載。OTA上で245名の予約（2月末時点）。

8 + 3 公園のビジターセンターに予約機能を備えた**デジタルサイネージ等**を設置し、アクティビティ等の情報を一元的に**多言語で提供**

### その他の取組

- インバウンドを対象とした**野生動物を観察するツアーの開発**やそれらツアーのプロモーション等の取組を補助事業により支援。海外の旅行博への出展、**ツアーコンテンツの開発を実施**。
- 野生生物保護センターの改修のための設計業務を実施（3カ所）。
- 各国立公園の特徴・価値をビジュアル的にもわかりやすく整理した「**国立公園ストーリー集**」を作成し、地域関係者との共通認識を深化。

### 2020年度の取組予定

- さらなるコンテンツの充実による受け入れ体制の底上げ、コンテンツの品質・安全管理等国際的な要請への対応検討による持続力の強化。
- 長期滞在・消費額向上に寄与する、複数公園を横断する、アドベンチャーツーリズム市場向けモデルコースの造成。
- 国立公園ストーリー集等を活用した、国立公園のブランドの浸透及びコンテンツへの反映。
- 野生動物観光を促進するために、引き続き、観光拠点としての野生生物保護センターの活用促進及び民間事業者等が実施する野生動物を観察するツアーの開発等の支援を行う。
- 引き続き、ビジターセンターにおける自然を満喫するための情報提供機能の強化を推進。

### 成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
磨き上げたコンテンツ数	69 (2018.6時点値)	103	<b>185</b>	300
コンテンツと二次交通を組み合わせたお勧めモデルコース数	—	23	<b>44</b>	60コース
国立公園を含む地域コンテンツ情報の一元化が進んだ地域数	—	4	<b>10</b>	10地域

# 1. 受入環境の整備 ③引き算の景観改善

## 施策の取組と成果

- ・ 廃屋撤去、電線地中化、通景伐採等の実施により、**引き算の景観改善を実施。**
- ・ 統一性を欠くエリア内の景観デザインの改善に向けた**計画策定**、それに基づく**まちなみ改善の修景等**の整備事業により、**集団施設地区をはじめとする国立公園の利用拠点において公共と民間が一体的に上質な滞在環境を創出。**

### 【阿寒摩周】



地域で統一されたアイヌ文様を使用し、また、隣接する建物とデザインが調和するよう、遊覧船乗り場の建物外観修景を実施



### 【日光】

駒止の滝観瀑台から滝つぼが眺望できるよう伐採を実施



### 【阿蘇くじゅう】



駐車場から印象的な山並みを望むことができるよう伐採を実施



### その他の取組

- ・ 環境省所管地を主な対象とした**廃屋対策スキームの整理**
- ・ 川湯温泉再生に向け、弟子屈町と連携しつつ、**環境省において廃屋（旧華の湯ホテル）撤去を実施中。**地元の行政等が中心となり、複数の民間事業者と連携し、**地場産品を提供しながら温泉を楽しむ交流広場**としての活用を検討中。

#### <先行8公園の廃屋撤去実績>

- ・ 大山隠岐（大山寺参道の旅館等2件 H29）
- 〃（三瓶山スキー場施設 H30）
- ・ 日光（旧ガソリンスタンド H30）
- ・ 十和田八幡平（見返峠レストハウス H30）
- ※現在、阿寒摩周や十和田八幡平等の廃ホテル等8件で実施中又はR2以降早期着手予定

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
撤去廃屋数	2件 (2016~2018.4)	4件	5件	12箇所 (2020年度)
景観デザインに関する計画策定数	4箇所 (2016~2018.4)	4箇所	5箇所	10箇所 (2020年度)
電線地中化など景観を阻害する施設の改善を行った地区数	5箇所 (2016~2018.4)	6箇所	6箇所	9箇所 (2020年度)
集中的な樹木の間引き、剪定による眺望確保や景観向上	18箇所 (2016~2018.4)	22箇所	25箇所	32箇所 (2020年度)

### 2020年度の取組予定

- 十和田八幡平では、引き続き所管地において景観を著しく阻害している廃屋の撤去に向け、建物収去土地明渡訴訟の手続きを継続的に実施。
- 市町村が中心となって地域の関係者と共同で面的な利用拠点計画を作成し、計画に基づき、廃屋撤去やまちなみ改善に加え、既存施設の観光資源化も促進。

# 1. 受入環境の整備 ④ 人材育成

## 施策の取組と成果

- ガイドやコーディネーター等の養成、地域でのプログラム開発、ツアーデスク等の受入体制、持続可能な体制づくりの強化等を目的に、インバウンドを踏まえたキーマンとなる人材育成の支援を行った。
- また、キーマンを中心として地域での継続性・裾野拡大を重視して、地域の自主的な取り組みを支援した。

### 【研修による成果】

#### 【霧島錦江湾】



研修参加者が中心となり、**新たなガイド組織を設立**するなど体制作りが進み、ツアー商品の充実により、2019年には1200名以上を受け入れ。

#### 【阿蘇くじゅう】

研修参加者が中心となり、**ガイド事業専門の法人を設立**。地域DMOと連携して**ツアー販売開始**。



【日光】 研修参加者が中心となり **新たなガイド組織を設立**。

#### 【大山隠岐】

オオサンショウウオの保全ツアーを官民連携により造成。エコツーリズム推進協議会を設立し、**エコツーリズム推進全体構想の作成に向けて取り組み中**。

## その他の取組

- 人材育成支援事業への参加地域を募集し、教材開発、集合研修、フォローアップアドバイザーを派遣、必要に応じてOJT受け入れ地域とのマッチングを行う。
- 集合研修参加地域において成果目標達成に向けた行動計画を策定。
- 研修参加者を中心とした、地域での自主的な取り組みを支援。
- 研修教材のデジタルアーカイブ化を進め、一般公開することで取り組みの裾野を広げる

### 成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
行動計画に基づき、人材育成の裾野拡大などの自走化に向けて自主的に取り組んでいる地域数	-	19	<b>30</b>	30

## 2020年度の取組予定

- 人材育成事業の研修教材を紹介したウェブページを活用し、効果的で全国へ波及する裾野の広い人材育成を推進する。
- 派遣アドバイザーの人材バンク化をすすめ、地域が自由に招聘できるようにすることで、効果が全国へ波及することを図る。
- OJT受け入れ可能な先進事業者と研修地域とのマッチングを行い、より効果的で実践的な研修とする。

# 1. 受入環境の整備 ⑤利用者負担による保全の仕組み作り

## 施策の取組と成果

- 地方公共団体、地元事業者、保護団体等と連携し、国立公園における利用者負担の仕組みづくりを積極的に拡大。
- 入域料の収受だけでなく、ツアー料金への上乗せ、施設利用料の収受、飲食物等の売り上げの一部還元等、多様な手法による取り組みを実施。



【阿蘇くじゅう】

くじゅう地域のタデ原湿原園地にて、ガイド料の一部を地域の野焼き活動等の支援に還元。



【大山隠岐】

大山にて入山協力金の収受を含む社会実験を実施（8～11月）。

## その他の取組

- 西表石垣国立公園の竹富島において、地域自然資産法に基づく入域料収受の取り組みが開始。（2019.9～）
- 妙高山、火打山では、これまでの社会実験の結果等を踏まえて、地域自然資産法に基づく入域料収受を2020年から開始する方向で調整中。
- 阿寒摩周、日光、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、慶良間諸島、屋久島において利用者負担の仕組みを導入済み。

## 成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
利用者負担の新規仕組みの件数 (入域料除く)	5 (2016~2018.7)	6	<b>11</b>	15 (2020年)
入域料の新規仕組みの実施数	2 (2016~2018.4)	2	<b>3</b>	増加

## 2020年度の取組予定

- 大雪山、阿寒摩周、十和田八幡平、大山隠岐、阿蘇くじゅう、屋久島、西表石垣において、利用者負担による保全の仕組みづくり構築に向けた調整を進める。
- その他地域においても、引き続き地元事業者・保護団体等との連携により、利用者負担の仕組みづくりの事例の拡大を目指す。

# 2.民間活用によるサービス向上 ①多様な宿泊サービスの提供

## 施策の取組と成果

- 分譲型ホテル等を宿舎事業として認可する規制緩和を実施する等、民間参入の促進に向けた制度を整備。国立公園内の上質なホテル・旅館の進出の機運拡大。
- 民間事業者と連携しこれまでに7公園でグランピングを実施。自然景観や文化、地域の食材やアクティビティなどと組み合わせ、民間事業者の主体的な取組の拡大に向けて支援。



【阿寒摩周】  
【十和田八幡平】



和琴半島野営場及び酸ヶ湯野営場にて、アクティビティと宿泊がセットで楽しめるグランピングのトライアルを実施。



【霧島錦江湾】

写真：星野リゾート 界 霧島

2021年に鹿児島県霧島市に上質な宿泊施設が開業予定。温泉、景観、文化的な背景など、霧島ならではの資源を活かした価値の提供を想定。

## その他の取組

- 国立公園の宿舎事業のあり方を踏まえ、**分譲型ホテル等を宿舎事業として認可する規制緩和を実施**。昨年9月に新たな審査基準を施行。
- 専門家同行による上質な宿泊施設誘致のための調査結果等を踏まえ、民間事業者との対話を実施。
- 今年度、大山隠岐、霧島錦江湾、足摺宇和海において、**民間事業者と連携したグランピングを実施**。

## 成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
国立公園内の上質なホテル・旅館の数（国際的格付け機関に評価された施設数）	45件 (2018年)	(年内同数)	<b>46件</b>	増加
※2018年と比較して評価対象エリアが拡大したため、2018年時点の資料から実績値を修正				
国立公園グランピング連携事業者数	2社	5社	<b>6社</b>	増加

## 2020年度の取組予定

- 「国立公園の宿舎事業のあり方について」を踏まえ、宿舎事業の意義を関係者が再認識し、新たな高付加価値な宿泊体験の提供と既存エリア・施設の再生・上質化に取り組む。
- 上質な宿泊施設の誘致に向けて、引き続き民間事業者との対話を実施する。
- 民間事業者と連携したグランピング等の実施について、民間事業者の主体的な取組が拡大するよう、必要な調整・支援等を実施する。

# 2.民間活用によるサービス向上 ②公共施設の民間開放

## 施策の取組と成果

- ビジターセンター等の公共施設においてカフェ等を導入し、民間によるサービス、利用者の利便性、施設の魅力を向上。  
**6箇所の公共施設にカフェ等の民間事業者を導入済み。エリアの年間利用者数の増加にも貢献。**
- 施設の整備・運営を官民連携で行い、民間事業者の創意工夫を取り入れながら、サービスの質の向上を図った。

### 下山野営場(整備イメージ)

### 【大山隠岐】



サービス提供イメージ  
 (写真:株式会社モンベル)

環境省として初めて設計・工事・運営等を一体的に行うDBO方式により公募し、株式会社モンベルを代表法人とする共同事業者を選定。令和3年度から同社が運営者となり、施設の供用を目指す。



### 【日光】



日光湯元ビジターセンターに新しく整備した「くつろぎスペース」に**地元の事業者が試験的に出店し、飲食物を提供。**

### その他の取組

- 阿寒摩周の既存キャンプ場について、民間サービスを活用したサービス向上等を目指し、**管理運営者の公募を実施。**
- 環境省所管地の土地・建物の使用許可期間の改定、カフェ等の導入に関する留意点等を整理したガイドライン作成、野営場設計・施工・運営の一体契約に関する留意点の整理を実施済み。
- 阿寒摩周、伊勢志摩、慶良間諸島、日光において、公共施設にカフェを導入済み。

### 成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
新たに民間事業者を導入した公共施設数	1箇所 (2016~2018.4)	4箇所	<b>6箇所</b>	7箇所 (2020年度)

### 2020年度の取組予定

- 日光国立公園キャンプ場再整備においても、PPP/PFI手法導入に向けた検討を進める。
- 慶良間諸島国立公園の座間味ビジターセンター整備にあたり、運営コンセプトやデザインについて専門家の意見を聞き上質化を図るとともに、民間カフェ部分含む一体的な管理運営体制構築の検討を進める。
- その他のビジターセンター等へのカフェや売店等の導入について、民間事業者と対話しながら検討を行う。
- ビジターセンター、キャンプ場、遊歩道等の一定地域内の施設の一体的な管理運営等について、地元関係者等によるエリアマネジメントの観点も含め、官民連携手法の成立性等について検討する。

# 2.民間活用によるサービス向上 ③民間事業者との連携

## 施策の取組と成果

- オフィシャルパートナーシップを75社と締結。企業と環境省が相互に協力し、機内誌・ウェブ・施設等でのPR、キャッシュレス化等受入環境整備、旅行商品の造成等の様々な取組を展開。
- 主要空港・駅等から国立公園への公共交通機関によるアクセスや拠点間の周遊など、関係省庁・自治体・民間事業者と連携して二次交通の課題改善を推進。

### 【オフィシャルパートナーシップ企業の取組事例】



ツーリズムEXPOにおけるパートナーシップ企業との連携による旅行会社等EXPO参加者向けのセミナー開催。



各パートナーシップ企業の情報発信媒体あるいは商品ツールに活用して、国立公園をPRあるいはツアー商品として発信。



JAL国際線における機内番組にて国立公園動画を放映。



### その他の取り組み

- 訪日外国人向けに2019年12月～2020年3月まで、鳥取県全域・島根県東部の**路線バス・ローカル鉄道が3日間乗り放題になる交通パスを販売**。
- 伊勢志摩国立公園の志摩市において、実証実験として2020年1月～3月にオンデマンド交通を含む電車やバス等の乗車券類のほか、旅行商品の「検索・予約・決済」の一本化を図る**MaaS アプリ「ぶらりすと」を公開し、サービスを提供**。

### 成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
オフィシャルパートナー数	49 (2018年)	61 (2018年)	<b>75</b>	増加
二次交通に関する新規取組数 (うち、自立的・継続的な取組数※) ※補助金等を受けずに運営しているもの	14 (8)	24 (13)	<b>37</b> (22)	増加

### 2020年度の取組予定

- パートナーシップ企業と各国立公園、パートナーシップ企業同士のマッチング機会の提供等により、引き続き商品造成やプロモーション等の事業化を促進。
- オフィシャルパートナーシッププログラムの取組をより魅力的なものとして効果的に情報発信。
- 引き続き関係省庁・自治体・民間事業者と連携して二次交通を改善。今後、体験型コンテンツと連動させた支援メニューも検討。

# 3.プロモーション その1

## 施策の取組と成果

- 日本の観光情報の発信は、日本政府観光局が国・地域・民間等と連携しつつ実施。国立公園情報についても、**JNTO サイト内に、国立公園サイト（環境省管理）を設置し、予約まで一気通貫で可能に。**
- さらに、メディア・SNS等を活用し、**外国人向けプロモーションを実施し、日本の国立公園サイトへ誘引し、実際に国立公園に足を運んでもらうため、国立公園の認知度を向上させる。**

### <対象国ごとのプロモーション状況>

2020.2.10時点

- 中国：**インフルエンサーマーケティング**（1インフルエンサーが1国立公園を取材し複数SNSに投稿）。8人アサインし7公園（慶良間以外の先行7公園）をプロモ。1SNSに2～6の記事・動画を掲載。**全て済。**  
**webメディア**。記事掲載。伊勢・十和田・大山・阿蘇・日光対象。**全て済。**
- 韓国：**ブログ**。6名アサインし大山・阿蘇・霧島対象にプロモ。**全て済。**
- 香港：**webメディア**。阿寒・慶良間。**全て済。**
- 英米：**webメディア**。伊勢・十和田・日光。**全て済。**
- ドイツ：**webメディア**。阿蘇・霧島。今後掲載。**全て済。**
- 英語圏：**BBC**。8+3公園。バナー、web記事、テレビ番組等。**全て済。**  
**webメディア**。ラグビーワールドカップ時期に合わせて阿蘇・十和田・日光をJTBラグビー特設サイト上、Live Japan等に記事掲載。**全て済。**  
**SNS (instagram, facebook)**。営業日毎日更新。自然風景写真等。

### その他の取り組み

- 国立公園統一マークの活用
- 国立公園公式Instagram、Facebookを開設、現地レンジャーにより公園の魅力を発信
- 成田・羽田・熊本・大分空港等において、デジタルサイネージによる国立公園動画を放映
- 新宿御苑インフォメーションセンター**を中心に**国立公園等に関する展示設備の設置やPRコンテンツの作成等**
- 国内外の旅行博や商談会において旅行会社やメディア等とのビジネスマッチングを実施（VJTM2019では183商談実施し、15件程度の商談が成立あるいは商品化に向け調整継続中）

※公園名は簡略化して記載。例：霧島錦江湾→霧島 ※新型コロナウイルス発生以降、一部プロモは中止。  
 ※先行8公園（阿寒・十和田・日光・伊勢・大山・阿蘇・霧島・慶良間）、+3公園（支笏・富士・中部山岳）

### 成果指標

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2020.1)	目標値
公式Facebookファン数	56,822 (2018.5)	69,788	<b>110,473</b>	150,000 (2020年)
公式Facebook新エンゲージメント率 <small>(投稿を見た人に占めるいいね！等の積極的反応を行った人の割合)</small>	7.1% (2018.6)	8.2%	<b>9.5%</b>	毎月平均 5%以上
国立公園ウェブサイトPV数	- (2019構築予定)	-	<b>185,278</b>	増加

### 2020年度の取組予定

- 東京2020オリンピック・パラリンピックに伴うインバウンド向けの情報発信（内容検討中）。
- 日本博事業により、科博・NHKワールドと連携し、企画展「国立公園」等による国立公園PR。
- 長期滞在・消費額向上のためグランピングを含めたアドベンチャートラベル層向け情報発信の強化。
- オフィシャルパートナーシッププログラムの取組をより魅力的なものとして効果的に情報発信。

# 3. プロモーション その2 デジマケ概念図



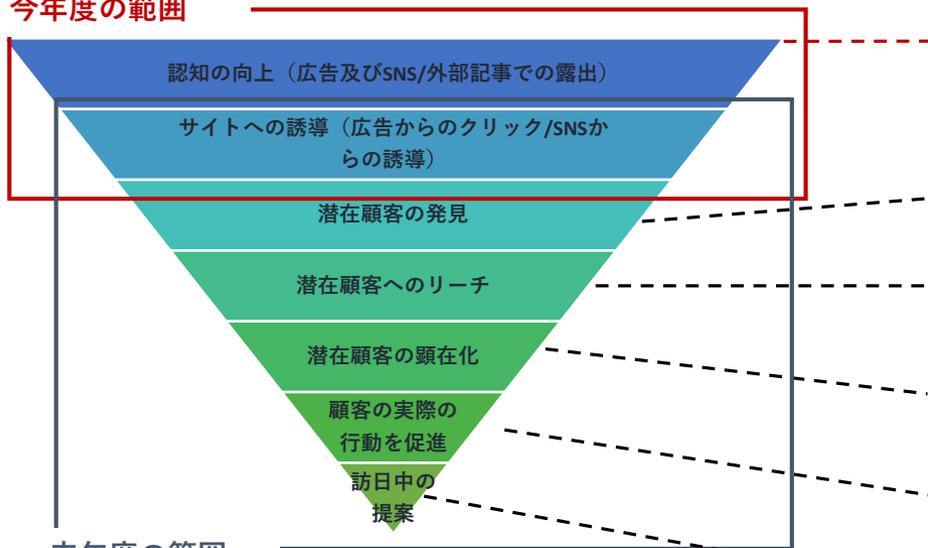
# 3. プロモーション その3 デジマケの現状と今後

## 認知度向上施策の実施目的

1. 観光プロモーションでは、まず「日本の国立公園」について知ってもらうこと（認知度向上）が必要。それにより、日本を訪れること及び日本訪問の際の国立公園訪問を想起させることにつながる。知ってもらうことから、全てが始まる。
2. なお、認知度向上とともに、本年度のプロモーションにより獲得したユーザーデータを分析することで、より国立公園利用確度の高いユーザーの属性を特定する予定。
3. 来年度以降は、その高確度潜在ユーザーへのターゲティング広告や記事、動画を制作し、当該ユーザーが興味を持つ媒体へ集中的に出稿することで、より効果的・効率的なプロモーションを行う。

## 「プロモーションの各フェーズ」

今年度の範囲



広告/記事/SNSを活用することで国立公園を認知してもらい、JNTOサイトへ誘導。潜在顧客のデータを獲得・蓄積する  
認知度の指標

ページビュー: **185,278** (2019/4~2020/1)

ユーザー数 : **99,723** (2019/4~2020/1)

サイト訪問ユーザーの行動を分析し、国立公園利用する確度の高い潜在顧客を発見

→Google Analyticsによる興味関心分析及び参照元サイト分析

確度の高い潜在顧客に対し、ターゲティングを行い、広告/記事広告/動画広告などを用い、接触する

→分析結果を利用したGoogle Display Network等でのターゲティング

接触後に様々なサイトコンテンツを提供し、日本及び国立公園への行動欲求を呼び起こす

→記事コンテンツ・動画コンテンツ等の制作・露出

外部サイトへの誘導と予約への導線を設計し、国立公園訪問という実際の行動を促す

→予約サイトへの導線設計

訪日中に国立公園へ想起させ、さらに利用を促進する

→Google Display Network等でのリターゲティング

来年度の範囲

国立公園への訪問

● ユーザー ● ページビュー数



# 4. 関係省庁や地域との連携

## 施策の取組と成果

- 関係省庁連携により観光ビジョンに基づく各施策をさらに効果的に推進するとともに、**地域のニーズに応じた適切な交付金等の支援制度の活用によって、公園区域外も含めて地域で実施する事業との連携も図った。**
- 地域協議会の開催及び広域連携DMO等との連携によって、**地域一体となった取組を推進した。**

【阿蘇くじゅう】【霧島錦江湾】ほか



九州中部・南部の4地方銀行と環境省で、国立公園資源の持続的な活用など地域循環共生圏に関する連携協定を締結。  
(R2.1)

【阿寒摩周】

【日光】



(株)地域経済活性化支援機構の「観光遺産産業化ファンド」により、民・官・公・金の連携で国立公園を地域の観光資源として磨き上げる取組について、北海道東エリア（阿寒摩周）に加え、栃木エリア（日光）においてもR1.12に地銀出資決定、具体検討を開始。

## その他の取り組み

- 観光庁や文化庁、内閣府等の交付金等を活用して、プロモーションやガイド育成、マーケティング戦略基盤整備等の取組を地域で実施したほか、**運輸局が主体となり二次交通改善の実証事業等を実施。**

## 2020年度の取組予定

- 引き続き地域のニーズに応じた支援制度の活用や広域DMOとの連携を図ることにより、地域が一体となって関係する施策を効果的に進める。

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
省庁連携による取組数 (交付金活用を含む)	32 (2017年度)	26 (2018年度)	23 (2019年度)	40 (2020年度)
先行8公園における公園外の取組数	41 (2017年度)	51 (2018年度)	71 (2019年度)	50 (2020年度)

# 5.体制強化

## 施策の取組と成果

- 14カ所の国立公園において、公園を統括する「**国立公園管理事務所**」を新規設置。所長の着任、保護管理と利用の企画官が増員され、プロジェクト実施の体制強化により、関係機関との連携推進、プロジェクトの各種取組が実現。
- 地方自治体や観光協会等の体制が強化され、地域の各種取組が推進。

- 先行8公園（慶良間諸島除く）、準ずる3公園、吉野熊野国立公園、奄美群島国立公園に国立公園管理事務所を設置。所長の配置によるハイレベルな調整の実施により取組が飛躍。
- 民間経験者の利用企画官の新規採用により、経験を生かしたコンテンツ造成や情報発信を実施。



ファミトリップや関係者との連携によるツアー造成



## その他の取り組み

- みちのく潮風トレイルの全線4月開通の機会を捉え、外国人にとっての新たな魅力の発掘、利用プログラムの検討、施設の整備、広報等を一体的に図る目的で名取自然保護官事務所を設置。
- **利用拠点の再生を担う専門官**を配置。（阿寒摩周、十和田八幡平）
- 地元自治体・観光協会の体制の強化。

## 2020年度の取組予定

- 訪日外国人利用者の多い、大雪山国立公園、上信越高原国立公園に、国立公園管理事務所を設置予定。（2箇所）
- 効果の見込まれる国立公園において、利用企画官を配置。

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
現地レンジャー数	150名 (2018年度)	(年度内同数)	<b>177名</b> (2019年度)	200名 (2020年度)

# 6.全国展開

## 施策の取組と成果

- ・ 滞在期間の延伸、消費額の増加等につながる国立公園をテーマにした周遊の促進や自然体験コンテンツの上質化・磨き上げといった取組を支援する事業を7件採択し、支援を開始。
- ・ 国際観光旅客税等の財源を活用しつつ、先行8公園での取組事例を全国的に展開するよう自治体・民間事業者に支援を行った。
- ・ 自然公園制度の見直しに向けて有識者からなる検討会を設置し、国立公園での利用や公園事業等のあり方等について検討を開始した。



先進的インバウンドプロジェクト支援事業 採択地



国立公園でのインバウンド対応に向けたガイドブックを2019年3月に作成し、地域に共有

成果指標	実績値 (2018.8)	実績値 (2019.1)	実績値 (2019.12)	目標値
先行8公園の成果を共有するツール制作	1件 (2017年度)	1件 (~2019.1)	2件 (~2019.12)	3件 (2020年度)
自然公園法等に関する制度見直し	使用許可期間の延長(3年→10年) (2017年度)	-	自然公園制度のあり方検討開始	制度見直し (2020年度)

## 2020年度の取組予定

- 先進的インバウンドプロジェクト支援事業により地域の先進的な取組を2019年度に引き続き支援。
- 自然公園制度のあり方については2019年度中に取りまとめる予定の提言を踏まえ、具体の対応を検討。

## スタート時の課題指摘

【第1回】

- ◆ 日本の国立公園に対する世界的な認知度が不足している。
- ◆ 観光の視点からの有益な国立公園に関する情報が国から発信されていない。
- ◆ 施設が観光客目線で整備されてない。
- ◆ 奥深さを知ってもらうのにガイドが不可欠。
- ◆ 個人旅行者受入の交通手段その他環境整備が不十分。

【第2回】

- ◆ 受入地域の推進部隊があるのか、実際にできるか、地域の持続的な予算確保できるかといった視点も重要。

【第3回】

- ◆ 奥行き論、キャリングキャパシティの視点が必要。
- ◆ 資金がどのようについてくるか、どのように現金化するか考えるべき。

【第4回】

- ◆ 解説版が不足、内容も外国人には難解。
- ◆ トイレ等の設備や景観を楽しんでもらう工夫ができていない。
- ◆ 富裕層層向けも含め利用者に応じた宿泊施設の多様性に乏しい。
- ◆ キャンプ場を観光施設に変えていくべき。
- ◆ 廃屋が著しく景観を害している。

## 満喫プロジェクトの基本的な視点

- ① 最大の魅力は自然そのもの
- ② 暮らしや文化とともにある国立公園
- ③ 体積で考える
- ④ 多様なニーズに対応した楽しい国立公園
- ⑤ 広域的な視点で考える
- ⑥ 利用者目線から現場を改善する
- ⑦ サステナビリティの視点を取り入れる

## 満喫プロジェクトの成果

### 国立公園を訪れる外国人訪問者、泊数、消費額、満足度の増加／向上

- 国立公園における外国人利用者数は年々増加。2018年は全国の訪日外国人旅行者数の伸び率を上回る伸び。2019年1～9月は、韓国等の影響により前年度同期比1%減。
- 満足度、支出額、宿泊数等の質の指標について、利用者に対するアンケート調査を実施。外国人で満足した割合は96.5%、2回目以上のリピーター率は14%（11公園2019年暫定値）
- 自然保護の役割を担いながらも、自然の魅力を生かして利用推進を図る自然公園行政の転換。
- 地域の経済効果につなげ国立公園を地域資源として関係者が改めて認識、利用が保全につながる仕組みづくりそのものや自然環境の価値の高まりによる、保護と利用の好循環に向けて前進（利用者負担による保全の仕組み作り（14事例））

### 1 外国人旅行者受入のための基盤整備の進展

- 屋外の案内解説板、ビジターセンター展示解説の多言語化（23箇所、整備率91%）
- ビジターセンター等の改修/新築（15箇所、整備率93%）、Wi-Fi整備（17箇所、整備率100%）、最新デジタル展示による理解促進（7箇所）
- トイレ洋式化（24箇所、整備率96%）、展望施設（2箇所、整備率67%）、歩道（16箇所、整備率94%）（※整備率は先行8公園の直轄施設における数値（R1年度工事中等含む））
- JNTOサイト内に国立公園サイト（英語）を設置し、同サイトへの誘導を実施（PV数 当初約6,000/月 → 現在約37,000/月）

### 2 コンテンツの磨き上げ、地域における受入体制の強化や景観の改善

- 国立公園のストーリー性を重視したコンテンツ造成及び販売支援による誘客強化
- ガイド等の人材育成や地域における一元的窓口の設置促進による受入体制の整備、ビジターセンターにおけるアクティビティ情報の発信
- 廃屋撤去（5箇所）、地域が一体となった利用拠点滞在環境の上質化（R1年度事業化）

### 3 多様な宿泊サービス充実、公共施設民間開放、民間との連携強化

- 宿舍事業あり方（H30.9）、分譲型ホテル等認可基準（R1.9）→ホテル進出の機運増大
- グランピングの導入促進（これまでに6事業者と連携）
- 環境省所管地の使用許可期間を3年から10年に延長（H29.10）
- 民間事業者によるカフェ等の案件形成（6箇所）、野営場の再整備～運営を民間一括実施
- オフィシャルパートナーシップ企業 75社、REVIC観光遺産産業化ファンド設立
- 二次交通改善の取組数 37箇所

### 4 プロモーション強化

- 国立公園統一マーク、ブランドスローガン、国立公園フォントによるブランディング、これらを活かした国立公園の認知向上
- 旅行博や各種メディア等も用いた情報発信による認知向上

### 5 関係者との連携体制強化

- 多様な主体が連携して受入環境を整備、国立公園の魅力を上。開始前にはなかった取組を数多く実施。

## 現状課題

- 「1000万人目標」に向けた更なる取組。
- 人数の指標のみであり、質の指標は全体的な傾向に対応。個別の取組の効果を直接的に反映していない。
- 保護と利用の好循環の成果を上げるには地域における継続的な取組が必要。

取組進捗・手法等の蓄積

- 8公園における主要な利用拠点やアクセス上の直轄施設の対応は概ね完了。今後、自治体、民間を含め、エリアにおける多言語化等受入環境の充実が必要。
- 国立公園サイトの充実（利便性・コンテンツ拡充・多言語化（中国語対応）等）が必要。

継続取組

- 自然コンテンツに加えた文化資源等との連携も必要。
- 外客対応可能なガイド・インタープリターが不足。
- ビジターセンター等の人的な多言語対応が必要。
- 廃屋撤去、撤去後の新たな民間参入による魅力ある利用拠点再生は取組途上。

継続取組

- 新基準等による上質なホテル・旅館の増はこれから。
- ニーズに基づいた民間事業者の広がりによるグランピングの更なる拡大が見込まれる。
- 民間のサービス展開への継続的な金融支援が引き続き課題。
- オフィシャルパートナーシップの継続と具体的成果の促進が必要。
- 二次交通改善事例の継続的な蓄積が必要。
- 国立公園のブランディングと効果的なプロモーションによる国立公園の認知度向上は取組途上。
- デジタルマーケティングによるターゲットを絞った効果的・効率的な誘客促進が必要。
- DMOとの連携は取組途上。
- 関係者との連携体制の維持・継続が有効。
- 広域連携及び他の観光資源との連携など、目的地として選ばれるための重層的な魅力形成はこれから。

受入環境の整備

サービスの向上、プロモーション強化等

既存の7つの基本的な視点の下、以下の取組を推進

### 【基本的な方針】

- 継続的かつ長期的な視点で取り組む。
- 総合的な磨き上げ、集中的な取組の実施。
- 全体的な底上げを図る。

### 【目標・指標】

- これまでの成果や政府全体目標※を踏まえ、2030年に向けた新たな全国目標・指標を検討し設定。  
※ 現在：2030年訪日外国人旅行者数、訪日外国人旅行消費額、地方部での外国人延べ宿泊者数、外国人リピーター数、日本人国内旅行消費額
- 人数目標について政府目標に対応した設定は引き続き必要（目標の設定方法をどのようにするかは検討調整）。
- 質の目標・指標（延べ宿泊者数、満足度等）を定め、体積で考えることも検討
- 取組を行う公園・地域ごとに個別の目標・指標を検討し設定。

### 【新たに追加、重視すべき項目】

- 施設単体の改善から面的な利用拠点上質化へ重点を移行
- 文化等地域の主要観光資源も含めた連携
- 複数公園・周辺観光地との広域的な連携・周遊利用の促進
- 地域の金融機関や交通機関等との協定に基づく成果の実現
- ターゲットを意識したマーケティング戦略導入
- 国定公園でのインバウンド対策の支援

→これらの取組の推進にあたってDMOとの連携をより一層強化

## 【当面5年間における推進の枠組み】

### ① 先行する公園

- これまでの「先行的、集中的な取組を実施する8公園」で、これまでに整えた受入環境や基盤を生かし、インバウンド受入れの役割を担う。+ 3公園もこれに準じる。

- ※ 受入れ方は関係者の取組意向や目指す公園の利用のあり方による。
- ※ 地域協議会の体制・継続、対象範囲は取組内容や意向に応じ検討。
- ※ 公園ごとの成果評価、計画の再検討を実施し、次期プログラムに基づく施策を展開。

### ② 集中・総合的な取組を行うモデル地域

- 「先行する公園」「+ 3公園」のうち、さらに高みを目指す地域。

- ※ 世界水準を意識し、多様な主体との連携を発展強化、新プログラム策定、強力なプロモーション活動等を集中的に実施。

### ③ 上記以外の地域

- 8公園において成果があった取組を横展開する地域

- ③-1 総合型：地域協議会等の組織・ステップアッププログラムの策定により同時一体的に複数の取組を実施
- ③-2 個別事業型：基盤整備（多言語対応）や海外発信等の底上げを中心に推進。加えて、熱心な自治体・民間事業者による魅力あるコンテンツづくり・滞在環境の上質化等を個別に支援

- 国定公園

- ※ 都市部の近さによる利用集中の分散への期待、ポテンシャルの高さ、地域における受入体制等を考慮し、一部の公園において基盤整備（多言語対応）や海外発信等を中心に支援。

- 満喫プロジェクトの成果を踏まえた自然公園制度を見直し、自然公園全体に波及。

- ※ 自然体験プログラムの促進、集団施設地区の上質化、公園事業の経営再生支援等。

## 2019（令和元）年度 国立公園満喫プロジェクト有識者現地視察箇所一覧

公園名	視察委員	実施日
阿寒摩周	涌井委員	2月12日（水）～13日（木）
十和田八幡平	アトキンソン委員	2月19日（水）～21日（木）
伊勢志摩	キャンベル委員	1月25日（土）～26日（日）
阿蘇くじゅう	石井委員	2月12日（水）～14日（金）
霧島錦江湾	野添委員	12月4日（水）～6日（金）
日光、大山隠岐、慶良間諸島については、3月以降の視察を予定		

# 新宿御苑における魅力向上の取組状況

参考資料 2

2020年を見据え、旧皇室庭園としての歴史を踏まえつつ、これまでの高評価のトレンドを維持しながら、

①民間活用等による「更なる質の向上」と「年間を通じた利用の促進」、

②環境行政に関する積極的な情報発信

を進め、新宿御苑の一層の魅力向上を図り、外国人旅行者を含めた来園者の満足度を高める。

## 1.開園時間の延長・入園料金の改定

- 2019年3月19日から  
・開園時間を延長(16:30⇒18:00)  
※7/1～8/20は19:00まで  
※閉園時間延長は9/30まで
- ・入園料金を改定  
大人200円⇒500円  
こども50円⇒無料化 等



新宿御苑の夕景

- 2019年10月22日～27日早朝開園の試行(9:00⇒7:00開園)

## 2.快適な利用環境の整備

- レストハウスにおける民間カフェ(2020年3月下旬オープン)



レストハウス



- キャッシュレス決済の試行(2019年11月下旬入園券事前購入開始、2020年2月下旬マルチ決済端末試験導入)
- 旧洋館御休所(国指定重要文化財)の開放拡大
- 多言語によるわかりやすい案内標識の充実
- レストラン、休憩所、トイレ施設等のユニバーサルデザイン化の一層の推進、Wi-fi環境の充実、ユニバーサル対応ガイドアプリの試行 等

## 3.夜間イベント等の実施

- 民間の夜間イベント等への開放ルール策定・公募(2019年夏より公募開始)
- 桜開花時期のライトアップ(2019年春)
- 菊花展開催時・紅葉時期のライトアップ(2019年秋)



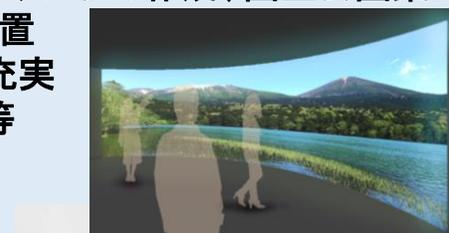
八重桜のライトアップ

## 4.新宿御苑の魅力向上と一体となった国立公園の情報発信(2019年度中)

- 新宿御苑インフォメーションセンターを中心に、国立公園等に関する展示設備及びPRコンテンツの作成、国立公園案内カウンターや物販設備の設置  
新宿御苑ガイドブックやHPの充実
- 試行的ガイドツアーの実施 等



インフォメーションセンター



【令和2年度予算（案） 17,871百万円（16,253百万円）】

【令和元年度補正予算（案） 7,715百万円】

世界水準の「ナショナルパーク」を実現し、国立公園等の保護と利用の好循環により、地域活性化を図ります。

## 1. 事業目的

- ① 日本の国立公園のブランドイメージを確立し、インバウンドの誘客を促進
- ② インバウンド対策を通じ、外国人とともに日本人も国立公園や国民公園の魅力を満喫できるようにする
- ③ 利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし消費単価や満足度の向上するための施策を実施し、地域に経済効果をもたらし、一層の自然環境の保全への再投資を促進

## 2. 事業内容

\*：国際観光旅客税を活用した事業

平成28年3月に政府（議長：内閣総理大臣）がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」の柱の一つとして国立公園が位置づけられ、**2020年に国立公園訪日外国人利用者数を年間1000万人**とする目標を掲げている。**2018年の当該利用者数は約694万人**となり、**利用者数の更なる増加と受入環境整備の強化、満足度の向上**に向け、国立公園を磨きあげる以下の取組を実施する。合わせて、国民公園の魅力向上を図る。

- ・ **滞在環境の上質化\***：利用拠点の滞在環境の上質化、多言語解説の整備・充実
- ・ **魅力あるコンテンツづくり\***：アクティビティ等と組み合わせたグラブリング、国立公園ならではの「食」やナイトタイムを生かしたツアー等の造成、野生動物観光の促進。ビジターセンターのアウトドア対応機能強化とデジタル技術を活用した展示促進
- ・ **基盤的な利用施設の整備／長寿命化**：登山道の再整備、キャンプ場リニューアル等
- ・ **受入環境の整備**：ガイド等の人材育成、利用者負担による保全の仕組みづくり等
- ・ **海外への情報発信**：旅行博等への出展、JNTOとの連携によるプロモーション強化\*等
- ・ **新宿御苑や京都御苑の魅力向上\***：歴史的遺構の整備や体験型コンテンツの造成等

## 3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業／補助事業／交付金
- 請負先 民間事業者・団体／都道府県・市町村
- 実施期間 平成28年度～

## 4. 事業イメージ



廃屋撤去跡地の新たな民間事業導入、景観整備



くろさきテラス（仮）



（イメージ）デジタル展示  
デジタル技術の活用



グラブリングや「食」、文化・歴史等の国立公園の資源活用によるコンテンツづくり



Uni-voiceコードによる多言語解説



アドベンチャートラベル層に向けた  
キャンペーン展開（JNTOとの連携）



新宿御苑におけるバック  
ヤードツアーの造成

お問合せ先： 環境省自然環境局総務課：03-5521-8672 / 国立公園課：03-5521-8277 / 国立公園利用推進室：03-5521-8271

／自然環境整備課：03-5521-8280 / 野生生物課：03-5521-8282

## 国立公園の磨き上げ

### 利用拠点の滞在環境の上質化

外国人旅行者の満足度向上、長期滞在促進のため、

- 地域で策定する利用拠点計画に基づき、廃屋撤去、既存施設のリノベーション、まちなみ改善等、利用拠点の面的な再生を推進



- 核心的な景観地の利用施設改修を支援



### 魅力あるコンテンツづくり

- 上質な宿泊体験、アクティビティ、食事等を組み合わせた外国人旅行者にとって魅力あるグランピングの推進



- 地域独自の自然・文化等のストーリーを伝えることによる、国立公園ならではの「食」等の魅力向上

- 野生動物の保護の現場と屋外の野生動物の観察を組み合わせたストーリー性のあるツアー開発の支援



- 国立公園ならではの魅力ある自然・文化・歴史を楽しめるナイトタイムコンテンツの造成を支援



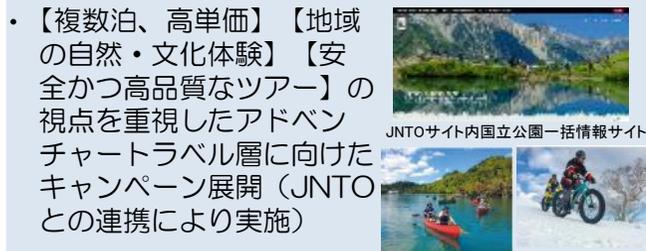
### 国立公園の魅力発信

- デジタルサイネージ等において、アクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供



(イメージ) デジタル展示

- 国立公園の他地域へ誘導するために、インバウンド利用が多く、効果が期待出来る地区にデジタル展示を導入



## 国民公園の魅力向上

### 新宿御苑における取り組み



- 武家屋敷、皇室庭園としての歴史・文化を発信
- ネイティブ監修によるガイドツアーの造成

### 京都御苑における取り組み



- 総合案内所(閑院宮邸跡)の機能強化や拾翠亭(茶室)利用拡充のための環境整備
- AR(拡張現実)による歴史的遺構解説

### 多言語解説の整備・充実

- 全国34国立公園等を対象に、案内板・展示等における英語・中国語等の多言語解説整備を加速



(Uni-voiceコードによる多言語解説) (QRコードによる多言語解説)

## ねらい

- 目標まで1年半となる中で、**従来からの取組を着実に実施**するとともに、2021年以降の取組方針について、2019年度～2020年度初めにかけて議論をし、方向性をある程度定めておくことで、**2021年当初からも切れ目なく取組が実施できるようにすることが重要**。
- 2019年までの取組状況や成果、それを踏まえた課題や2021年以降に取り組むべき事を整理し、**有識者よりアドバイス**をいただきながら、**2021年以降の取組の方向性を検討**する。

## 検討の流れ・スケジュール（案）

2019年度	9月：2021年以降の方向性の検討の流れ、主なポイントにかかる意見交換（ <b>第11回会議</b> ） ↓ 2019年までの取組状況と成果、課題の整理（テーマ別・8公園別に実施） ↓ 年度末：2021年以降の取組方針の議論①（ <b>第12回会議</b> ）	第14回以降 有識者会議 を開催予定
2020年度	春：2021年以降の取組方針の議論②（ <b>第13回会議</b> ・中間報告） ↓ プロジェクト全体の取組状況と成果とりまとめ ↓ 年度末：2021年以降の取組方針のとりまとめ 2020年目標に対する結果（訪日外国人国立公園利用者数）、最終評価	

## 方向性検討にあたって意見をいただきたいポイント

- **取組成果の評価指標**
  - ◆ 2021年以降、国立公園において目指すさらなる高みとは
  - ◆ 高みを目指す上での指標
- **プロジェクト推進のための枠組み**
  - ◆ 先行的、集中的に取り組んできた8公園の役割・継続して行うべきこと
  - ◆ +3公園を含めた国立公園全体で取り組むべきこと
- **2021年以降プロジェクトで追加すべきこと・取り組むべきこと**

# 国立公園訪日外国人利用者数の推計について

参考資料6

- 当推計は、観光庁「訪日外国人消費動向調査(全国調査)」の調査票情報を利用し推計したもの、具体的な推計手順は以下のとおり。  
 ①訪日外国人消費動向調査の「訪問地選択コード」のうち、国立公園内の観光地等を抽出(880の訪問地選択コードのうち139を抽出)  
 ②訪日外国人消費動向調査における訪問地ごとの選択率(当該訪問地の回答数/有効回答数)を算出。  
 ③訪日外国人の母集団構成に合わせるため、上記②について国籍・地域別及び出国港別ウェイトバック\*を実施(平成29年以前は国籍・地域別ウェイトバックのみ。)  
 \*日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」及び法務省「出入国管理統計」をウェイトとして使用。  
 ④JNTO「訪日外客数」の総数に、上記③のウェイトバック後の選択率を乗じ、推計。

公園名	訪日外国人利用者数										(参考)推計外国人延べ宿泊者数(千人泊)				
	H27		H28		H29		H30			H29	H30	前年増減(%)			
	推計実利用者数*1(千人)	標準誤差率(%)	推計実利用者数*1(千人)	標準誤差率(%)	推計実利用者数*1(千人)	標準誤差率(%)	推計実利用者数*1(千人)	前年増減(%)	標準誤差率(%)				(参考)推計実利用者数(95%信頼区間)*2(千人)		
1 利尻礼文サロベツ	5	31.6%	14	21.1%	10	26.9%	13	35.5%	26.6%	6	~	20	0.07	0.05	-31.3%
2 知床	21	15.4%	28	14.5%	20	18.7%	38	84.3%	15.8%	26	~	49	2	3	31.9%
3 阿寒摩周	63	8.9%	58	10.2%	57	11.2%	58	2.4%	12.7%	44	~	72	102	130	27.7%
4 釧路湿原	34	12.0%	27	15.0%	39	13.5%	42	8.1%	15.0%	30	~	54	0.03	0.07	180.0%
5 大雪山	64	8.8%	83	8.5%	60	10.9%	80	32.5%	10.8%	63	~	97	109	111	1.4%
6 支笏洞爺	688	2.6%	827	2.7%	901	2.8%	1,068	18.4%	2.9%	1,006	~	1,129	1,517	1,405	-7.4%
7 十和田八幡平	7	26.7%	22	16.6%	19	19.5%	29	55.8%	17.9%	19	~	40	55	74	33.6%
8 三陸復興	10	22.4%	16	19.2%	15	21.6%	13	-14.8%	26.9%	6	~	20	0.6	0.2	-65.3%
9 磐梯朝日	0.5	100.0%	4	39.4%	9	27.4%	6	-36.7%	39.6%	1	~	11	23	24	3.2%
10 日光	190	5.1%	241	5.0%	271	5.1%	304	12.2%	5.5%	271	~	337	72	93	29.9%
11 尾瀬	-	-	2	53.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12 上信越高原	214	4.8%	265	4.7%	322	4.7%	341	5.7%	5.2%	306	~	376	74	71	-3.5%
13 秩父多摩甲斐	19	16.2%	22	16.5%	10	26.7%	11	12.4%	29.0%	5	~	18	5	5	-11.0%
14 小笠原	-	-	0	133.5%	-	-	2	-	72.4%	0	~	4	-	-	-
15 富士箱根伊豆	2,341	1.4%	2,577	1.4%	2,580	1.6%	2,991	15.9%	1.7%	2,892	~	3,090	1,792	2,325	29.8%
16 中部山岳	338	3.8%	351	4.1%	382	4.3%	376	-1.5%	5.0%	339	~	413	123	106	-14.1%
17 妙高戸隠連山	8	24.2%	6	32.5%	13	23.4%	14	9.4%	25.7%	7	~	21	56	35	-36.5%
18 白山	3	40.8%	1	66.3%	2	68.3%	4	147.4%	49.8%	0	~	7	0.5	6	1246.4%
19 南アルプス	-	-	1	93.6%	2	57.2%	1	-69.0%	117.9%	0	~	2	0	0	0.0%
20 伊勢志摩	33	12.2%	61	9.9%	76	9.7%	49	-35.6%	13.9%	36	~	62	80	82	2.5%
21 吉野熊野	53	9.7%	59	10.1%	67	10.3%	63	-5.9%	12.2%	48	~	78	93	61	-34.3%
22 山陰海岸	32	12.4%	50	10.9%	43	12.8%	41	-5.5%	15.1%	29	~	53	82	82	0.0%
23 瀬戸内海	296	4.1%	310	4.0%	387	4.3%	676	75.0%	3.7%	627	~	725	223	210	-5.6%
24 大山隠岐	6	28.9%	14	20.8%	11	25.5%	5	-57.0%	44.7%	1	~	9	13	9	-30.8%
25 足摺宇和島	0.5	100.0%	5	35.4%	5	38.3%	1	-85.9%	117.3%	0	~	2	8	4	-44.0%
26 西海	55	9.5%	74	9.0%	56	11.3%	45	-18.9%	14.4%	32	~	58	0.09	0.1	49.8%
27 雲仙天草	28	13.2%	29	14.4%	25	16.8%	23	-10.4%	20.4%	14	~	32	17	10	-40.5%
28 阿蘇くじゅう	682	2.7%	675	2.9%	926	2.7%	1,034	11.7%	3.0%	974	~	1,094	298	356	19.5%
29 霧島錦江湾	71	8.3%	79	8.7%	129	7.4%	142	10.7%	8.1%	120	~	165	86	91	5.5%
30 屋久島	10	22.4%	17	19.0%	25	16.8%	17	-31.7%	23.4%	9	~	25	0.3	2	583.3%
31 奄美群島	-	-	-	-	6	35.0%	2	-73.0%	77.3%	0	~	4	0.2	0.1	-20.4%
32 やんばる	-	-	-	-	-	-	22	-	20.8%	13	~	31	4	5	-38.3%
33 慶良間諸島	-	-	-	-	-	-	27	-	18.5%	18	~	37	31	47	50.8%
34 西表石垣	12	20.4%	14	20.8%	14	22.7%	32	129.5%	17.2%	21	~	42	28	58	107.2%
合計(選定された8公園*3)	1,052	-	1,150	-	1,488	-	1,649	10.8%	-	1,574	~	1,724	737	882	19.7%
合計(各公園計)	5,284	0.8%	5,932	0.9%	6,482	0.9%	7,569	16.8%	1.0%	7,425	~	7,713	4,895	5,407	11.8%
合計(推計実利用者数)	4,902	0.9%	5,457	0.9%	6,001	1.0%	6,940	15.7%	1.0%	6,800	~	7,080	-	-	-
訪日外客数全体*4	19,737	-	24,039	-	28,691	-	31,192	8.7%	-	-	-	-	-	-	-

…年ごとの上位10公園  
 …参考値\*5

- (訪日外国人利用者数の推計値についての注意点)  
 \*1 推計実利用者数:当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用して1人と数える。また、合計(選定された8公園)及び合計(各公園計)は、1人の利用者が2つの公園に訪れると2人と数え、合計(実利用者数)は、1人の利用者が複数の公園を訪れると1人と数える。千人単位で四捨五入している。  
 \*2 95%信頼区間:同じ母集団の標本調査を100回行うと、そのうち95回はこの区間の中に母平均が含まれる。  
 \*3 国立公園満喫プロジェクトにおいて先行的・重点的に取組を進めることとされた公園。阿寒摩周国立公園、十和田八幡平国立公園、日光国立公園、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、慶良間諸島国立公園。  
 \*4 訪日外客数全体:出典:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」  
 \*5 標準誤差率が30%以上の公園については、サンプル数が少なく信頼性が低いので、参考値とする。取り扱いには十分注意し、転載や二次使用する際には、信頼性の低い参考値であることを明記し、その旨を理解して使用すること。(特に、「訪日外国人消費動向調査」の調査対象空港が少ない場所においては、捕捉率が低くなっている可能性がある。)

※平成29年以前の「慶良間諸島国立公園」及び「やんばる国立公園」は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択コードに該当する地点が無かったため、推計対象外。  
 ※平成27年の「尾瀬国立公園」・「小笠原国立公園」・「南アルプス国立公園」・平成29年の「尾瀬国立公園」・「小笠原国立公園」及び平成30年の「尾瀬国立公園」は、標本数が0(欠損)のため推計不可として扱った。  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

(推計外国人延べ宿泊者数(参考)についての注意点)  
 ※延べ宿泊者数:当該国立公園内の宿泊施設の利用者数の合計人数(子供や乳幼児を含む)。1人の利用者が複数の宿泊施設を利用すると重複して計上される(例:1人の利用者が3つの施設を利用すると3人泊)。  
 ※「尾瀬国立公園」及び「小笠原国立公園」は、標本数が0のため推計不可として扱った。  
 ※この推計は、「宿泊旅行統計調査」(観光庁)のデータを利用し推計したもの。推計にあたっては宿泊旅行統計で用いられている母集団名簿の内、国立公園区域内に含まれている宿泊施設を抽出して実施した。このため、特に国立公園区域内に存在する宿泊施設が少ない国立公園については、地域の宿泊実態との誤差が大きい可能性がある。  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

国立公園満喫プロジェクト有識者会議  
委員名簿

<敬称略・五十音順>

【学識者】

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

わくいしろう  
涌井史郎（東京都市大学特別教授） ※座長

【観光関係者】

いししいたる  
石井 至（株式会社石井兄弟社社長）

えざききく  
江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

ほしのよしはる  
星野佳路（星野リゾート代表）

【ジャーナリスト・ライター】

のぞえ  
野添ちかこ（温泉と宿のライター）